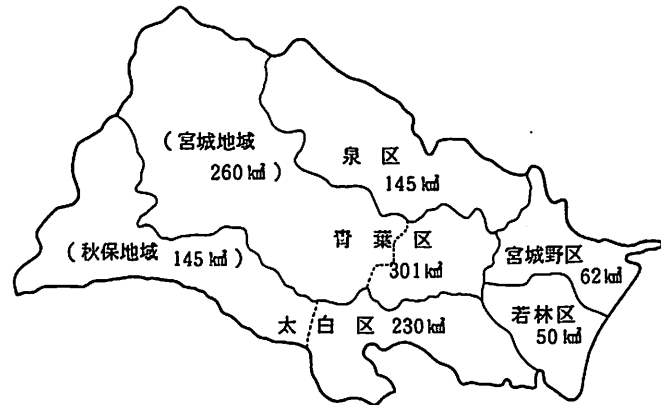


暮らしとごみに関する仙台市民意識調査

報 告 書

平成 4 年 3 月

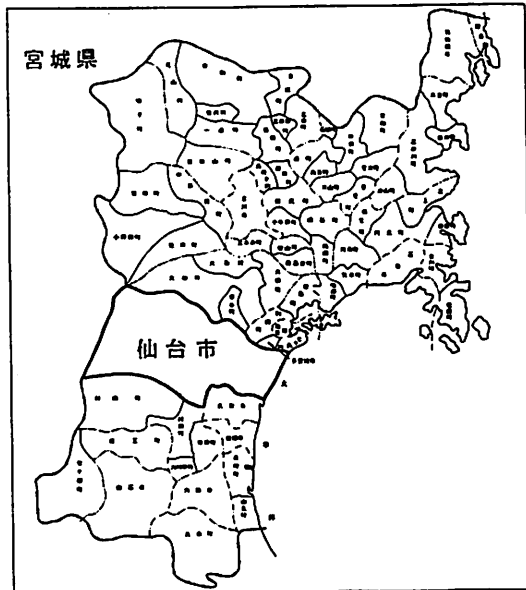
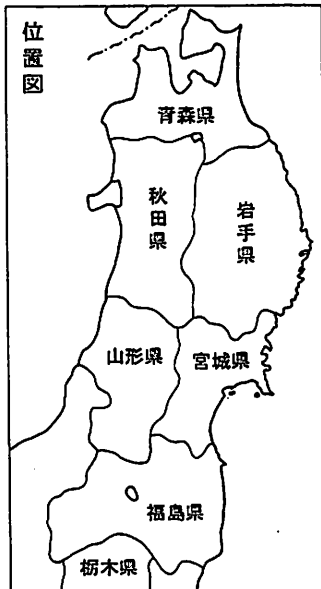
調査主体 **生活環境研究会**
調査協力 **仙台市環境事業局**



(平成元年4月1日政令指定都市へ移行)

面積	788.05 km ²
人口	930,520人
世帯数	350,981世帯
一世帯当り人数	2.65人
人口密度	1,181人/km ²

(平成3年10月1日現在 平成2年国勢調査結果を基礎とした推計)



まえがき

冷戦の終結によって、核戦争による地球消滅の危機がやや遠のいた現在、我々は「別の方法」によって地球を死に追いやろうとしている。環境破壊である。

環境問題を解決することは、われわれ人類の最重要課題の一つである。なぜなら、環境問題を解決できるかどうかは地球の存立がかかっているからである。環境問題の中でも、われわれの日常生活によって生じる廃棄物問題（以下、生活廃棄物問題）は、個人の行動や社会の仕組みがとくに密接に関わっている典型的な事例といえよう。したがって、実際に廃棄物の収集と処理を担当する自治体はもちろんのこと、生活廃棄物問題の解決に果たすべき社会科学と行政の役割は大きい。

このように、生活廃棄物問題の解決が大きな課題となっているなか、仙台市では、1989（平成元）年7月に生活環境研究会（東北大学文学部行動科学研究室内）に「生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査」を依頼し、同年11月に報告書を公表した。報告書公表後も仙台市環境事業局および生活環境研究会では、得られた結果をさらに分析し、廃棄物関係誌や研究誌に論文を掲載するなど、積極的な取り組みをおこなってきている。

さらに生活環境研究会は、それまでの環境問題に関する研究をふまえ、1991年に仙台市民を対象とした生活廃棄物問題に関する調査を企画した。この調査企画は、廃棄物処理に関する統一策の評価を目的とした仙台市環境事業局の調査構想と合致し、仙台市環境事業局は、生活環境研究会の調査に側面的協力することとなった。

環境問題に対する社会科学の関わり方には、様々なものが考えられる。生活廃棄物問題の場合には、特に、個人の行為と社会的結果との矛盾した関係が重要な焦点となる。たとえば、一人ひとりにとってはごみの分別などしない方が楽だが、そのような行動が集まると社会的に大きな問題が生じ（汚染、ごみ処分場の不足など）、それが巡りめぐって当の個人にも損害を生じさせる。このような状況は、「社会的ジレンマ」と呼ばれ、社会科学の領域で過去20年間に膨大な知見が蓄積されてきた。生活環境研究会は、生活廃棄物問題を社会的ジレンマの構造をもっていると考え、本調査の企画をおこなった。

本調査が生活廃棄物問題の解決、ひいては環境問題の解決のためになんらかの寄与ができればと考えている。

なお、本調査をおこなうにあたって生活環境研究会は「財団法人 第一住宅建設協会」および「財団法人 地域社会研究所」からの研究助成金を得ている。ただし、上記の援助団体からは、内容に関する制約はまったくうけていない。また、仙台市環境事業局との共同研究をすることについても、上記援助団体からの承認を得ている。

1992年3月

生活環境研究会
仙台市環境事業局

調査の概要

1. 調査の企画と実施

本調査は、生活環境研究会（代表：海野道郎 東北大学文学部教授）と仙台市環境事業局との共同で実施されたものである。生活環境研究会が調査の企画と実施を行い、環境事業局は側面的に協力した。

調査の目的は次の2点である。

① 現行のごみ処理システムの利用状況とそれに対する市民の評価を明らかにする。

② 現在以上の労力的負担や金銭的負担が可能な条件を明らかにする。

調査対象は仙台市住民基本台帳から無作為に選ばれた1500世帯であり、該当世帯における主な家事担当者に記入をお願いした。

調査票は以下の5つの観点から構成されている（①ごみ問題に対する行動、②現行制度に対する評価、③費用負担・労力負担に対する態度、④基本属性、⑤社会意識）。対象世帯へは1991年9月中旬に調査票を郵送し、調査員が9月26日から29日にかけて各世帯を訪問し、調査票を回収した。回収率は81%（1209票）である。

2. 調査結果の分析

1) 回答者の特性

回答者のうち7割が女性である。女性は20歳代から50歳代が中心であり、40歳代が最も多い。男性は20歳代が最も多く、30歳代以上はほぼ同率である。女性の半数は専業主婦である。女性の4割程度が常時雇いまたは臨時雇いで働いている。男性のうち4割は常時雇われている人である。

8割の回答者が自分の所属階層を『中』と回答した。回答者の半数が現在の日本社会に満足しており、また、7割が、現在の自分の生活に満足していると回答している。

2) ごみ問題に対する意識と行動

回答者の9割弱が仙台市で「ごみ問題が生じている」と感じており、ごみ問題の様々な面を心配している。排出容器では1991年4月から導入された「指定袋」を利用している人が最も多い（7割弱）。家庭ごみの排出容器は9割以上がルールを守っており、排出時間も8割弱がルールを守っているという結果が得られた。現在の排出容器を使用する理由や排出時間を守る理由としては「仙台市の決まりだから」を指摘する回答者が多くみられた。排出時間を守らず、前日に出すこともある回答者の理由としては「当日の朝に出す時間的余裕がないから」が前日の朝に出す人の大半（8割）を占めている。

ごみ問題の解消に寄与しうる諸行動（以下では、対処行動）について「実行の現状」「有効性」「手間意識」「将来の協力意志」という4つの観点から質問した。その結

凡例

- 1) 本文中では、問や選択肢を引用する際に、簡略化した言い方をしていることが多い。簡略化した言い方は〔 〕で表現してある。正確なワーディング（言葉つかい）は巻末の付録4.1. 調査票を参照されたい。
- 2) 同様に集計の結果に言及する際には、文脈に即して概数で述べることが多い。詳しい数値については巻末の付録4.2. 単純集計表を参照されたい。
- 3) 本文および図表中の％は、四捨五入のため、合計が100になるとは限らない。
- 4) 図表中の「わからない・こたえない」とは、「わからない」「こたえたくない」などの理由で回答が得られなかったことを表す。なお、図中で「わからない・こたえない」が省略されている場合も、パーセントの数値は「わからない・こたえない」を含めて計算してある。
- 5) 『 』は複数のカテゴリーを合併したことを示す。例えば、問7では「かなり感じている」と「やや感じている」を合併して新しいカテゴリー『感じている』とし、「あまり感じていない」と「ほとんど感じていない」を合併して『感じていない』とする。
- 6) 以下の記述を読むにあたっては次のような注意が必要である。例えば、「現行の排出容器として「袋のみ」との回答は、年齢層では20歳代、従業上の地位では学生の比率が比較的高い」といったときに、「袋のみ」の回答が20歳代でしかも学生である回答者の比率が高いということは、必ずしも意味しない。そのようなことを確認するためにはさらに踏み込んだ分析が必要である。

1. 調査の企画と実施

1.1. 調査企画の経緯

生活環境研究会は仙台市と共同して『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査』（1989）を実施したが、同研究会はその結果をふまえてさらに分析をおこない、地域の共有物としてのごみ集積所をめぐる住民の意識と行動との関連や、ごみの分別に影響を与えている要因を明らかにした（海野・松野 1990、海野ら 1991）。また、生活環境研究会はそれ以外にも「スパイクタイヤ問題」や「環境と資源問題」を通して環境問題に関わってきた。そして、1991年春以降、それまでの知見をふまえ、社会科学の視点（一人ひとりの行為とそれらの行為が集積することによって生じる社会的な帰結との関連）から、ごみ問題へアプローチするべく、仙台市民を対象とした調査の計画を独自にすすめていた。他方、仙台市環境事業局は、1991（平成3）年4月から実施した廃棄物処理に関する統一方策の評価をおこない、その結果をごみ処理行政に活かしたいという調査構想を持っていた。両者は、このように調査構想が時を同じくしたことで、調査実施にあたって共同歩調をとることで合意に達した。そして、生活環境研究会の企画した調査項目が仙台市の調査希望項目をほとんど網羅していたことから、調査の企画主体は生活環境研究会とし、仙台市環境事業局は側面的協力をするという役割分担となった。

1.2. 目的

調査の主な目的は、ごみ問題を解決するために必要な条件と、解決の可能性を、市民のごみ問題に対する行動と意識との関連に注目して探ることである。具体的には①現行のごみ処理システムの利用状況とそれに対する市民の評価、および、②現在以上のコスト負担（分別の細分化などの労力的負担や金銭的負担など）が可能な条件を明らかにすることを目的としている。

1.3. 調査対象者

母集団は仙台市住民基本台帳（1991年5月現在）に記載されている全世帯（約34万世帯）である。標本（回答者）の選出には確率比例抽出法をもちいた。第一次抽出単位として仙台市内120小学校区から次の30校区を選出した。なお、500世帯に満たない校区は隣接校区と合併してひとつの校区とみなした。

第一次抽出単位（小学校区）

立町	東六番丁	片平丁	通町	榴岡	南小泉
長町	北六番丁	六郷（注1）	高砂	小松島	国見
荒巻	台原	遠見塚	上野山	折立	幸町
燕沢	袋原	古城	蒲町	鶴巻	幸町南
湯元	南光台	南光台東	長命ヶ丘	虹の丘	南吉成

第二次抽出単位（世帯）は、第一次抽出単位である小学校区ごとに、ランダムに決めたスタート番号から8世帯ごとに50世帯を抽出した。したがって、標本数は1500となる。なお、調査票への記入者は、その世帯での主な家事担当者である。

1.4. 調査票の設計

1.4.1. 基本方針

基本的には、標準的な社会調査法にしたがって行った（注2）。

上記の目的と同時に、環境問題に関して実施された先行調査との比較可能性や、今後、生活環境研究会で実施する調査との継続性にも配慮した。具体的には、基本項目として、属性の他に満足感などの意識項目を配した。なお、質問は、SSM調査（後述）などの先行調査で用いられたものをできる限り採用した。

1.4.2. 質問項目の構造

以上のような基本方針の下で、以下に示すような質問を作成した。

ただし、これは内容にしたがって並べたものであり、調査票上の質問は、調査の基本原則にしたがって配列した。問の番号は、各項目の前の（）内に示してある。また、（）内の問番号の次の記号は、本調査の問の基となった調査の略号であり、それぞれの調査の名称と概要は下記の通りである。

ORG : 今回の調査で独自(originally)に作成したものである。

SSM85 : 正式名称は「1985年社会階層と社会移動全国調査」。日本における代表的な社会調査の一つである。1955年以来10年ごとに実施されており、多くの社会学者が関わっている。最新の調査は1985年に実施され、東京大学出版会から1990年に報告書（全4巻）が刊行されている。

GOM189 : 生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査。1989年に仙台市環境事業局が仙台市民を対象に行った。調査の実施機関は生活環境研究会である。報告書も1989年に刊行されている。

HIGH2 : 第2回教育と社会に対する高校生の意識調査。1988年に宮城県下の高校生とその両親を対象に実施された。調査主体は教育文化研究会（事務局：東北大学文学部行動科学研究室内、代表：海野道郎、幹事：片瀬一男）。報告書は1990年に刊行された。

COOP90 : 環境と資源問題に関する組合員の意識調査。1990年にみやぎ生活協同組合が家庭班員を対象に行った。生活環境研究会は調査票の作成と結果の分析、報告書の作成に協力した。報告書の刊行は1990年である。

なお、(GOM189+)のように記号の後ろに「+」が付いているものは、先行調査の中の質問項目に若干の補訂を加えた上で採用したことを示している。

◎調査票の構成

表紙

（表題、調査年月、調査主体、調査協力、お願い文、回収についての指示、記入上の注意）

(1) 回答者の特性

1-1 基本属性

(Q40A:COOP90)	回答者の性別	(Q40B:COOP90)	回答者の年齢
(Q41:COOP90)	回答者の学歴	(Q42:GOM189)	回答者の従業上の地位
(Q38A:GOM189+)	家計支持者の続柄	(Q38B:GOM189)	家計支持者従業上の地位
(Q38C:GOM189)	家計支持者の従業先の規模		
(Q38D:GOM189)	家計支持者の職業		
(Q39:ORG)	世帯収入	(Q37:ORG)	同居家族数
(Q1:GOM189+)	居住年数	(Q2:ORG)	前住地
(Q43:GOM189)	居住形態	(Q19:ORG)	買物に利用する店舗
(Q3:ORG)	生活時間		

1-2 社会意識

(Q22:SSM85)	生活満足感	(Q21:SSM85)	社会満足感
(Q4:SSM85)	全般的公平感	(Q5:SSM85)	領域別不公平感
(Q20:SSM85+)	政治的有効性感覚	(Q6:HIGH2+)	生活価値意識
(Q23:SSM85)	階層帰属意識		

(2) ごみ問題に対する意識と行動

2-1 家庭ごみ排出行動について

(Q7:ORG)	ごみ問題発生認知	(Q8:ORG)	ごみ問題緒側面の心配度
(Q14:ORG)	現行排出容器とその理由		
(Q15:ORG)	指定袋導入以前の排出容器とその理由		
(Q16:GOM189+)	ごみを出す時間とその理由（理由は独自作成項目）		
(Q17:GOM189+)	近所がごみを出す時間		
(Q18:ORG)	家庭ごみ収集時間の評価		

2-2 近所つきあいについて

(Q10:ORG)	ごみの処理や収集について近所と話す程度		
(Q11:GOM189+)	近所付き合いの程度	(Q12:ORG)	近所付き合いの希望
(Q24:ORG)	地域への愛着感		
(Q13:GOM189+)	ごみ集積所を利用するにあたって考えること		

2-3 ごみ問題解決のための行動について

- (Q9:ORG, 一部はCOOP90) 実行している対処行動
(Q25:ORG) ごみ問題対処行動有効性
(Q26:ORG) ごみ問題対処行動手間意識
(Q30:ORG) ごみ問題対処行動協力の意志

(3) 現行制度に対する評価

- (Q27:ORG) 仙台市や仙台市民によるごみ資源化に対する評価
(Q28:ORG) 現行の収集制度に対する個別評価
(Q29:ORG) 仙台市のごみ収集処理事業に対する評価
(Q36:ORG) 仙台市の行政に対する信頼感

(4) 費用負担・労力負担に対する態度

- (Q31:ORG) ごみの収集・処理費用負担の公平感
(Q32:ORG) 公平な費用負担原理（ごみの収集・処理）
(Q33:ORG) 金銭的・労力的負担に対する態度
(Q34:ORG) 有料化許容意識
(Q35:ORG) 公平な費用負担原理（住民のための事業一般）

(5) 意見と感想（自由回答）

1.5. 実施の方法

対象世帯にあらかじめ調査票を郵送し、調査員が訪問して回収する、郵送併用の留置法を用いた。なお、調査票を郵送する前に、調査依頼の葉書（付録4.3.を参照）を対象世帯に郵送しておいた。それぞれの日程は次の通りである。

調査依頼の葉書郵送：1991年 9月12日
調査票郵送：1991年 9月17日
調査票回収：1991年 9月26日～29日

上記の手順にしたがい、9月26日から調査員が各対象者の世帯を訪問して調査票を回収した。配布した1,500票のうち有効回収票は1,209票であった。したがって、回収率は80.6%である。調査不能は合計 291票である。内訳は、拒否86、不在 100、転居 39、その他66である。その他には、尋ね当たらずや、高齢・病気のための記入不可能、調査票の紛失、未記入による無効などが含まれる。

調査票への回答は、当該世帯の主な家事担当者に依頼しており、回答者の7割が女性であり3割が男性であった。女性で最も多いのは40歳代であり、30歳代から50歳代までで女性の7割（回答者全体の5割）を占めている。一方、男性で最も多いのは20

歳代であり、男性の3割（回答者全体の1割）を占めている。また、女性の約半数が〔専業主婦〕である。〔常時雇用〕と〔臨時雇用〕がそれぞれ2割ずつおり、これらで女性全体の9割弱を占めている。男性では、半数が〔常時雇用〕であり、他には〔学生〕〔自営業主〕〔年金生活者〕が比較的多い。なお、回答者の詳細については「2.4.回答者の特性」を参照されたい。

注

(注1) 六郷は、六郷と東六郷の合併校区であったが、スタート番号の関係で50世帯すべてが六郷校区から抽出された。

(注2) 例えば、西田・新（1976）『社会調査の理論と技法（I）』、川島書店、を参照されたい。

参考文献

海野道郎・松野隆則 1990

「地域社会における共有物の管理 - ごみ集積所をめぐる仙台市民の意識と行動」、『日本文化研究所研究報告』別巻第27集 41-57頁。

海野道郎・松野隆則・小松 洋・土場 学 1991

「地域社会における共有物の管理(2) - ゴミの分別をめぐる仙台市民の意識と行動」、『日本文化研究所研究報告』別巻第28集 35-53頁。

2. 調査結果の分析

2.1. ごみ問題に対する意識と行動

本調査の第一の目的は、現行のごみ処理システムの利用状況とそれに対する市民の評価を明らかにすることである。そのために、①ごみ問題一般に対する意識および、②家庭ごみ排出行動の現状についての質問に回答してもらった。また、③近所つきあいについての質問も行った。③の近所つきあいは、GOM189の知見（分別行動と近所つきあいの関連）をさらに検討するために設けたものである。

2.1.1. ごみ問題一般に対する意識

ごみ問題をどのように認知しているかがごみ問題に対する行動と関連することが考えられる。そこで、ごみ問題発生の認知の程度（問7）と、ごみ問題の中で、どのような側面を心配しているか（問8）について質問した。

ごみ問題発生の認知（問7） では、仙台市で「ごみ問題が生じている」と感じているかどうかを尋ねた。図2.1.をみると、回答者の大半（9割弱）が仙台市でごみ問題が生じていると『感じている』（凡例に示したように、『』は複数のカテゴリーを合併したことを示す。ここでは「かなり感じている」と「やや感じている」を合併した）。属性別に見ると、男性（78%）よりも女性（89%）の方が、年齢では20歳代まで（70%以下）よりも30歳代以上（80%以上）で、『感じている』とする回答者の比率が高い。また、主婦やなんらかの職業についている回答者（90%以上）と比べると学生で『感じている』とする比率が低い（58%）。ごみ問題諸側面の心配度（問8） をみると「非常に心配だ」と考えられているのは、「環境への悪影響」と「天然資源の浪費」といった問題である。「ごみ処理にかかる費用のために自治体の財政が圧迫されること」をのぞく、5つの側面に対しては、「非常に心配」または「かなり心配」であるとする回答者が半数を超えている。属性別で見ると、「環境への悪影響」は、専門学校卒業以上の学歴獲得者で「非常に心配している」回答者の比率が高い（50%程度）。「焼却埋立能力がおいっかないこと」を「非常に心配」または「かなり心配」しているのは30歳代以上の回答者で多く（70%以上）、学生で少ない（57%）。「集積所の汚れ」は、30歳代以上の回答者や、自営業主の心配度が高い。

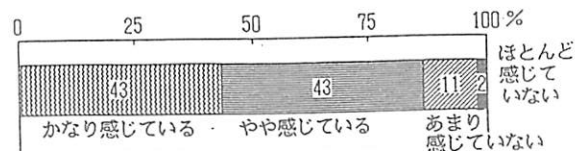


図2.1. ごみ問題発生の認知（問7）

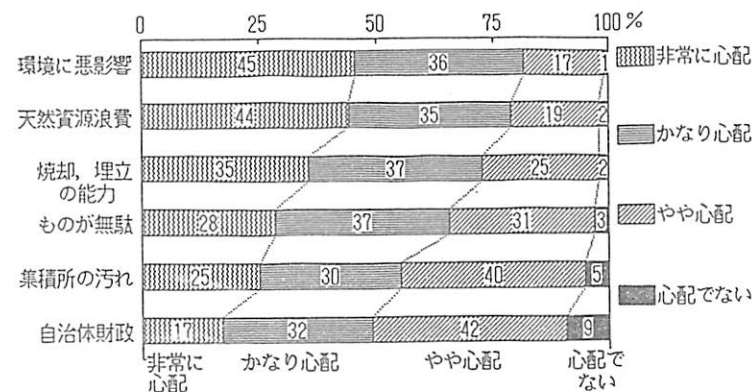


図2.2. ごみ問題諸側面の心配度（問8）

2.1.2. 家庭ごみ排出行動

では、総じてごみ問題の発生を認知し、様々な問題を心配している回答者は、ごみ問題に対してどのような行動を実行しているのだろうか。調査では、家庭ごみ排出の現状を把握するために、排出容器と排出時間を質問した。また排出容器としては、1991年4月からポリバケツ（泉区は除く）に加えて仙台市全域で「指定袋」が導入されたが、導入前後の変化を明らかにするために、導入以前の排出容器についても質問した。なお、行動だけではなく、それぞれの行動をとっている理由についても質問した。

指定袋導入以前の排出容器（問15A） をみると『ポリバケツ』が最も多く4割強（44%）である。（泉区の指定袋）の1割半ば（15%）と合わせて、6割が排出容器のルールを守っていたことになる。指定袋導入前には〔袋のみ〕という、ルールを守っていない回答者が3割見られた。〔袋のみ〕との回答は、年齢層で20歳代（57%）、従業上の地位では学生（61%）の比率が比較的高い。容器を使用していた理由（問15B） としては「仙台市の決まりだから」が最も多く5割強から指摘された。その他には「ごみを集める人が収集しやすいから（4割弱）」「集積所まで持ち運びがしやすいから（3割）」「習慣だから（2割半ば）」が指摘される傾向が見られた。

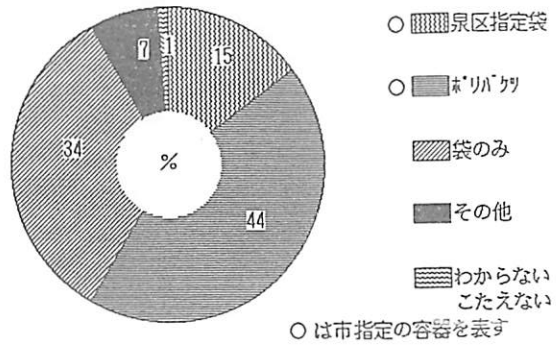


図2.3. 指定袋導入以前の排出容器（問15A）

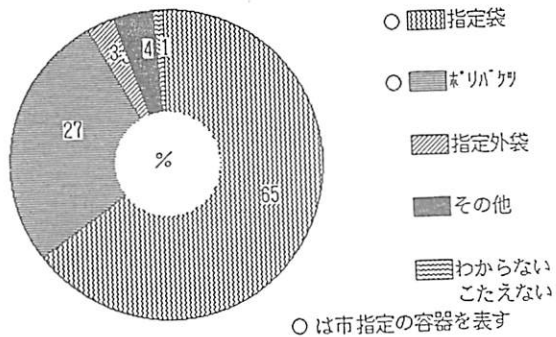


図2.4. 現行排出容器（問14A）

現行排出容器（問14A）としては〔指定袋〕がもっともよく用いられており、全体の7割弱（65%）を占めている。これに、『ポリバケツ』の3割弱（27%）を加えると、現在では回答者の9割以上（92%）が排出容器のルールを守っているといえる。〔指定袋〕を使用する傾向には属性による差異がほとんどみられない。容器を使用している理由（問14B）として「仙台市の決まりだから」が8割の回答者から指摘された。回答者の半数以上から指摘された項目は他にはない。

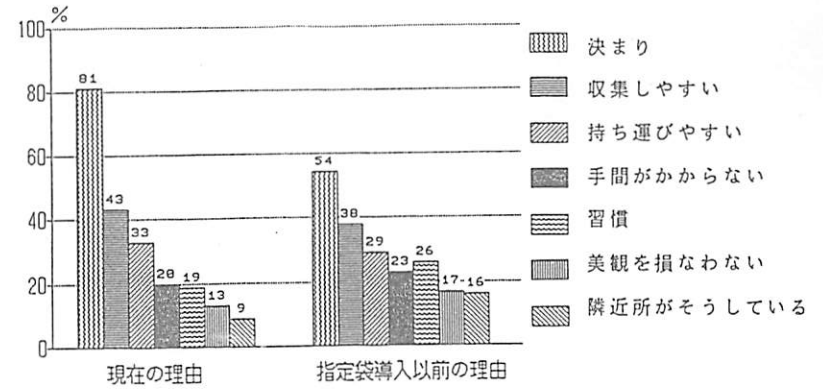


図2.5. 排出容器を使用する理由（問14B, 問15B）

ごみを出す時間（問16A）を見ると、8割弱がルールに即した「必ず収集日の朝に出す」との回答をしている。『前日に出す』こともある回答者は2割弱であった。「当日の朝出す理由」としては「決まりだから」と「カラスなどの被害を防げるから」が多い。一方、『前日に出す』こともある回答者の理由としては「当日の朝出す時間的な余裕がない」が大半を占めている。「近所の人たちが朝に出しているから」や「近所の人たちが前日に出しているから」といった、他人に同調して排出時間を決めていくという回答者はほとんどみられなかった。属性別にみると、学生（23%）、20歳代（49%）、男性（67%）、常時雇用されている人（69%）では〔当日朝〕との回答が少ない。

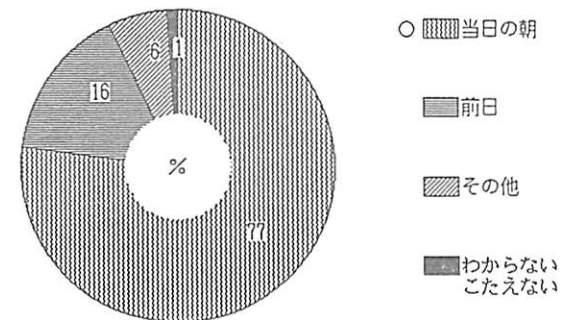
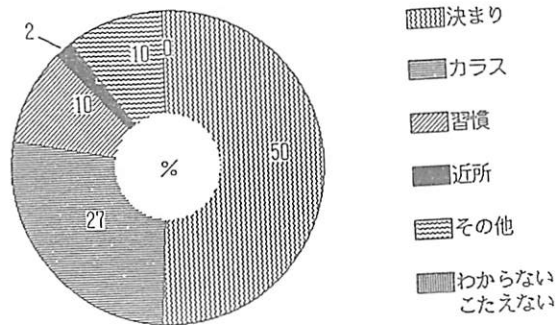
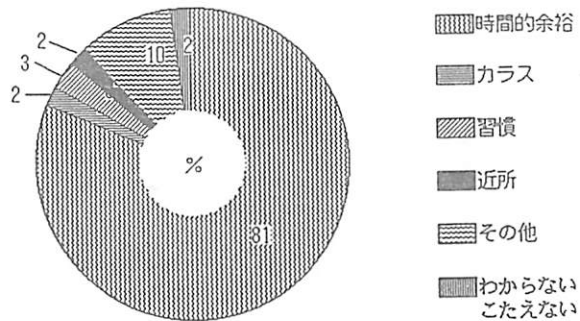


図2.6. 家庭ごみ排出時間（問16A）



当日朝出す理由



前日に出すこともある理由

図2.7. 家庭ごみ排出時間の理由 (問16B)

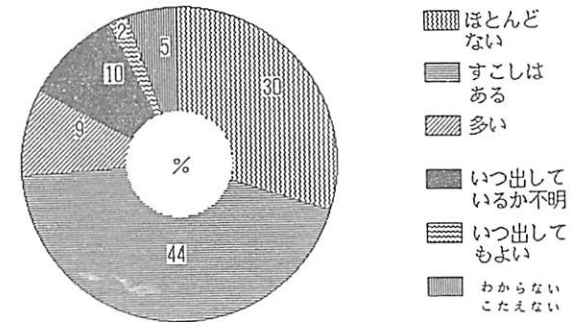


図2.8. 近所がごみを出す時間 (問17)

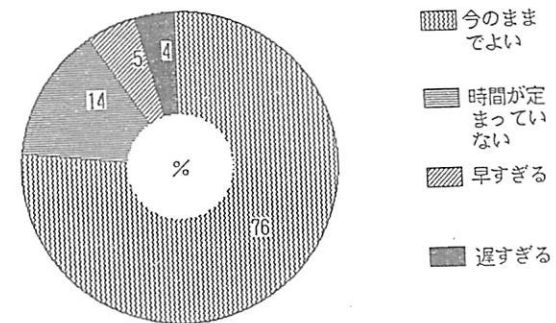


図2.9. 家庭ごみ収集時間の評価 (問18)

では、近所がごみを出す時間 (問17) をどのように見ているのだろうか。回答で最も多かったのは「前日に集積所に出している家が少しはある」の4割強で、「前日に集積所に出している家はほとんどない(3割)」がつづく。

家庭ごみ収集時間の評価 (問18) に対しては4人に3人(77%)が「今のままでよい」と現状を肯定的に評価している。一方で、1割半ばの回答者が「時間が定まっていないので困る」と否定的な回答をしている。

2.1.3. 近所つきあいについて

『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査』（1989年、仙台市環境事業局。生活環境研究会が調査実施と分析）において、近所つき合いの程度とごみの分別行動との関係が指摘された。すなわち、「近所つき合いの程度が疎遠になるほど、分別を行っていない人が多くなる傾向が顕著であり（『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査報告書』仙台市環境事業局、p.76）」、また、「付き合いが疎遠な人では、他人の目を気にする人ほど、分別を行っている（同書 p.77）」。

このような結果が得られた理由としては、近所つきあいが次のような機能を果たしたからではないかと考えることができる。

① 近所つき合いがごみ排出ルールやごみ問題に関する情報源となっている。

近所つきあいが親密になるほど、ごみ問題や環境問題についての情報が交換され、ごみ問題の解消に寄与するように行動する。

② 近所つき合いによって居住地域への帰属意識が醸成される。

近所つきあいが緊密になるほど、地域への愛着感が高まり、愛着をもつ地域を保全するために、ごみ問題の解消に寄与するように行動する。

これらの仮説は相反ではない。どちらがどの程度もっともらしいかを明らかにするために、「ごみの処理や収集について近所と話す程度（問10）」「近所つき合いの程度（問11）」「近所つき合いの希望（問12）」「地域への愛着感（問24）」「ごみ集積所利用するにあたって考えること（問13）」といった質問項目を設けた。

現在の近所つき合いの程度（問11）を5段階で評定してもらったところ「あいさつをする人もあるが、親しく話してはいない」と「親しく話をする人も少しはいる」がそれぞれ3割強見られた。「顔を知っている人はいない」はやや少なく1割であった。

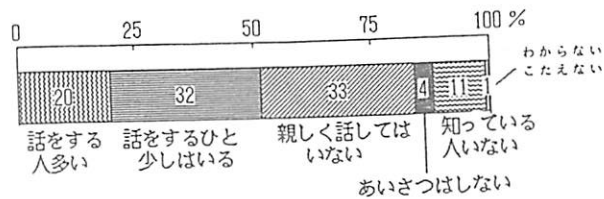


図2.10. 近所つき合いの程度（問11）

近所つき合いの希望（問12）として最も多かった回答は「親しいつきあいをする人も少しはいた方がよい」で、回答者の半数（48%）を占めている。次には「顔を合わせたら挨拶する程度がちょうどよい（27%）」「できるだけ多くの人と親しくつきあいたい（23%）」と続いている。「近所つきあいはあまりしたくない」という人はほとんどみられなかった。

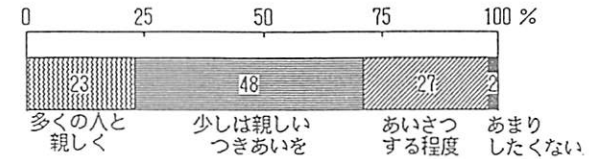


図2.11. 近所つき合いの希望（問12）

さて、情報源としての近所つき合いの役割を明らかにするために、ごみの収集や処理について近所と話す程度（問10）についてを3段階で尋ねた。その結果、「ほとんどない」がほぼ半数を占め、「たまにすることがある」がそれよりもやや少なく4割半ばであった。「よく話題になる」は1割弱しか見られなかった。

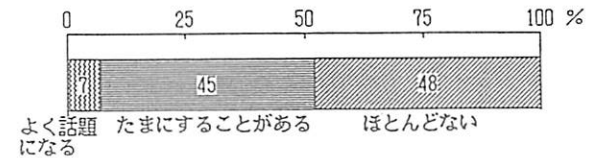


図2.12. ごみ収集や処理について近所と話す程度（問10）

また、地域への帰属意識強化因としての近所つきあいの役割を明らかにするために「仙台市」「現在住んでいる区」「町内」それぞれに対する愛着感を、「非常に感じている」から「ほとんど感じていない」まで5段階で尋ねた（問24）。その結果、『愛着を感じている』との回答比率が最も高かったのは「仙台市」の8割（78%）で、「居住区（6割）」「町内（5割強）」と続いている。

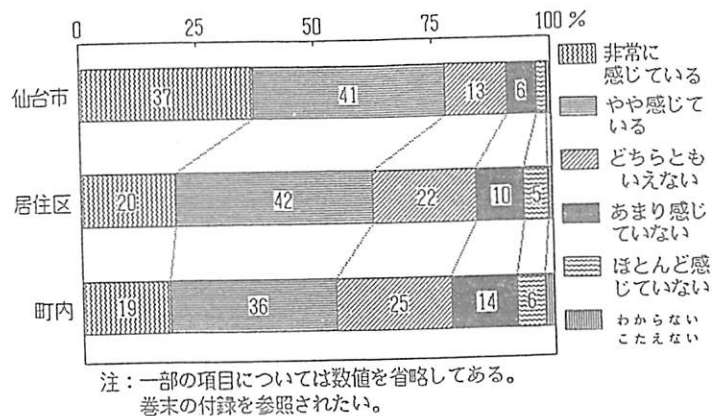


図2.13. 地域への愛着感 (問24)

ごみ集積所を利用するにあたって考えること (問13) については、次のようなことを「よく考える」から「ほとんど考えない」までの4段階で評定してもらった。

- ・ ルールを守って捨てないと、近所から何か言われるだろう [何か言われる]
- ・ 指定容器 (ポリバケツ、指定袋) で捨てないと集積所が汚れるだろう [集積所が汚れる]
- ・ 自分がどのようなごみを捨てているのか、他人に知られたくない [知られたくない]
- ・ ルールを守って捨てないと、収集する人に迷惑をかけるだろう [収集者に迷惑]

図2.14で見られるように、9割以上の回答者が「収集者に迷惑 (96%)」「集積所が汚れる (91%)」と『考える』と回答した。「何か言われる (78%)」と『考える』回答者も8割いた。また「知られたくない」と『感じている』回答者はやや少なく、半数 (46%) であった。

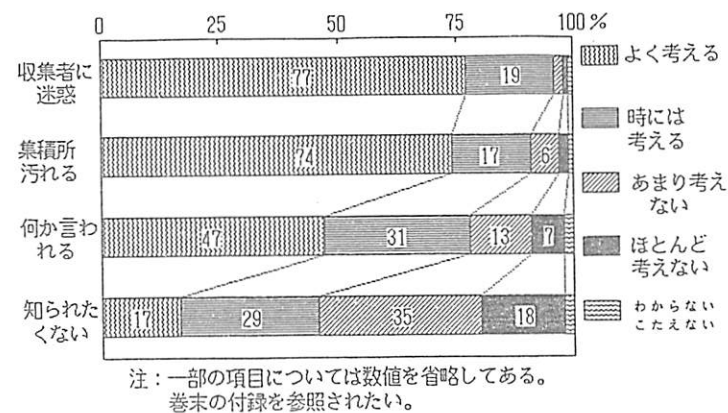


図2.14. ごみ集積所を利用するにあたって考えること (問13)

以上で、家庭ごみ排出行動の現状と、排出行動に影響を与えると考えられる「近所つきあい」に関連する質問項目の回答結果を見てきた。ほとんどの回答者が仙台市でごみ問題が生じていると感じており、問題の様々な側面を心配していることが明らかとなった。実際のごみ排出行動では、排出容器のルールを守る人が「指定袋」導入後3割ほど増加している。また、容器を使用する理由にも「指定袋」導入前後で若干の差異がみられた。指定袋導入によってルールを守るようになった人々の属性を明らかにすることは、新たな制度が受容される条件をさぐるために寄与するであろう。

回答者の7割が、少なくともあいさつをする程度のつきあいをしている。そして、半数が「親しいつきあいをする人も少しはいた方がよい」と考えている。近所つきあいの程度には、様々な要因が関連していると考えられる。それらの要因を明らかにした上で、上述の「近所つきあいと分別行動に見られた関連」についての仮説①と仮説② (12ページを参照) の妥当性を検証することが必要となる。

今後、ルールを守っていない人々の行動を変容させることが必要であることは言うまでもない。しかし、8割前後がルールを守っている現状では、現行ルールによるごみの収集と処理が、ごみ問題解決におよぼす実効性を評価検討することも必要となる。

さて、本調査では排出時間の実際と排出時間の認知に一見矛盾する結果がみられた。すなわち、8割弱が当日の朝に出している (問16A)と回答しているのに対して、4

割強が前日に集積所に出している家が少しはある(問17)のである。かりに、仙台市内一律に8割強が排出時間を守っている(すなわち、2割程度は守っていない)としたら、ほとんどの人が問17で「前日に集積所に出している家が少しはある」と回答するはずである。このように、現実の行動と他者の行動の認知とのギャップに底在するメカニズムを明らかにすることも今後の課題として挙げられるであろう。

2.1.4. ごみ問題解決のための行動

それでは、具体的にどのような対処行動がなされているのであろうか。本調査では、「ごみ問題」には様々な側面が存在することを念頭において、次のような行動を代表的な対処行動として提示し、それぞれについて実行しているかどうかを質問した(問9)。なお、〔 〕の中に示された語句は、図表中での表記である。

- | | |
|-----------------------------------------------------|----------|
| 1. 電池は、仙台市や販売店の、回収容器に入れる | 〔電池回収〕 |
| 2. ものが古くなっても、使えるうちは、新しいものに買い替えない〔買い替えない〕 | 〔買い替えない〕 |
| 3. 家族が着られなくなった衣服などを、親戚や知人に譲る | 〔譲る〕 |
| 4. デパートなどでの過剰包装は断る | 〔過剰包装拒否〕 |
| 5. 古新聞・古雑誌などを、資源回収やちり紙交換に出す | 〔古紙回収〕 |
| 6. 使い捨ての商品は買わない | 〔使い捨て不買〕 |
| 7. 生ごみはよく水を切って出す | 〔生ごみ水切り〕 |
| 8. ごみのポイ捨てはしない | 〔ポイ捨て〕 |
| 9. 空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ(泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」)収集に混ぜて出さない | 〔缶・びん回収〕 |

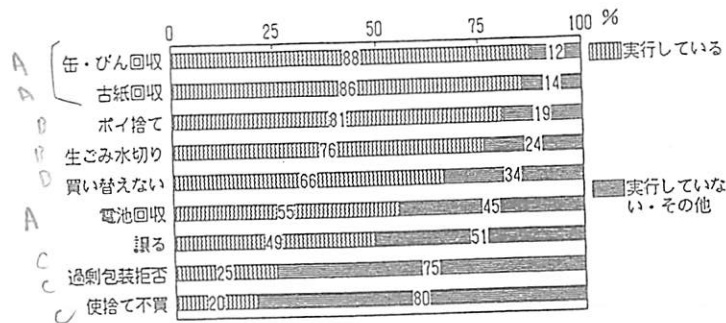


図2.15. 実行している対処行動(問9)

図2.15では、実行している割合が高い対処行動順に並べ変えた。これを見ると、〔缶・びん回収〕や〔古紙回収〕といった種類のリサイクル活動への参加が進んでいる。おなじ「回収」に関する行動でも、〔缶・びん回収〕や〔古紙回収〕に比べて、〔電池回収〕の実行度は低い。

〔過剰包装拒否〕や〔使い捨て不買〕といった商品購入時の対処行動の実行率が低く、対処行動の現状がごみ排出時や消費財の買い換え時に多く依存しているといえるだろう。日常的な商品購入に関わる対処行動について、さらに協力を求める必要がある。

では、これらの対処行動を、市民はどのように評価しているのであろうか。上記の対処行動をとることで、どの程度ごみ問題の改善に役立つか(問25)と、その行動をするのがどれくらい手間をとまなうと思われるか(問26)について質問した。なお、ごみ問題対処行動有効性(問25)については、前述の実行している対処行動(問9)で用いた9つの行動に、「生活ごみの収集・処理を有料化する〔生活ごみ有料〕」の項目を追加している。

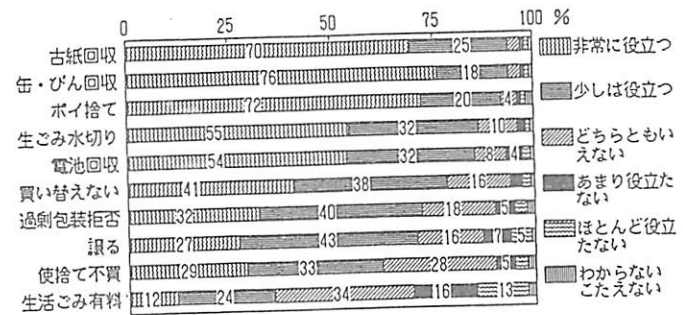


図2.16. ごみ問題対処行動有効性(問25)

図2.16では、「非常に役立つ」と「少しは役立つ」の占める割合の大きさによって、また図2.17では、「非常に手間がかかる」と「少しは手間がかかる」の占める割合の大きさによって、項目を並べ変えてある。

どのような対処行動がごみ問題の改善に役立つと思われるかについては、〔缶・びん回収〕〔古紙回収〕といったリサイクル行動が高い評価を得ていることが分かる。その他の対処行動もおおむね高い有効性が認められているものといえてよいだろう。

う。ただし〔生活ごみ有料〕化によるごみ問題改善の効果には、ほぼ3人に2人が『役に立たない(33%)』あるいは「どちらともいえない(30%)」と回答している。

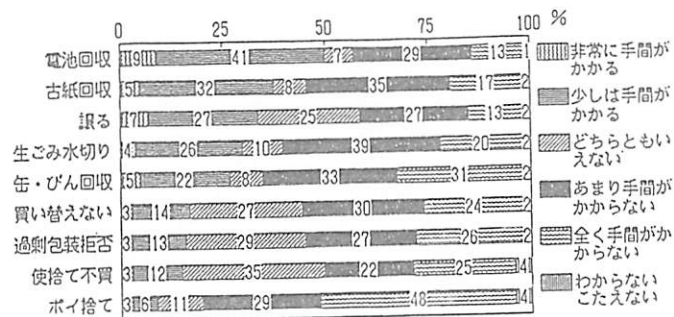


図2.17. 対処行動実行の手間意識 (問26)

また手間については、50%が〔電池回収〕を手間だとしている。これに〔古紙回収〕や〔譲る〕が続くが、全体的に対処行動の手間意識は高くないようである。「手間がかからない」という視点から見てみよう。〔缶・びん回収〕の64%が「あまり手間がかからない」「全く手間がかからない」としており、同じ回収事業では〔古紙回収〕の52%、〔電池回収〕の42%という順位になっている。これらの対処行動は分別などの手間をとともうが、それほどの負担感にはつなげていないようである。

現在実行している対処行動や、それに対する評価を踏まえて、将来的にはどのような協力可能性があるだろうか(ごみ問題対処行動協力の意志:問30)。図2.18は、「協力できる」と「多分協力できる」の占める割合の大きさによって、項目を並べ変えてある。

〔生活ごみ有料〕を除くすべての対処行動について、50%以上が「協力できる」「多分協力できる」としている。〔生活ごみ有料〕では、これが33%に留まっている。「どちらともいえない」との回答が33%を占める(使い捨て不買)や24%を占める〔過剰包装拒否〕〔譲る〕などの行動については、現時点で未知数の要素が多く、実際の行動に結び付けるためには、さまざまな条件の整備が必要だろう。〔生活ごみ有料〕以外のどの対処行動に対しても「多分協力できない」「協力できない」といった拒否的な回答は1割以下となっていることから、現在実行されていない行動についても、将来の実行可能性が示唆されている。

〔生活ごみ有料〕への厳しい見方は、今後十分な検討を要するところである。

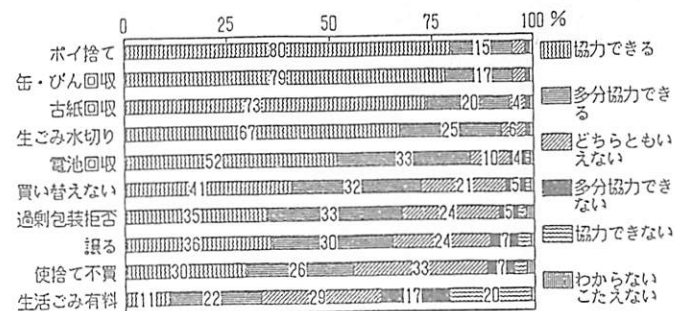


図2.18. ごみ問題対処行動協力の意志 (問30)

2.2. 現行制度に対する評価

現在、仙台市が中心となって行っているごみ収集・処理の事業やリサイクル事業は市民にどのような評価を受けているのであろうか。

まず、仙台市で行われている資源化への取り組みについての評価を図2.19に示した(仙台市や仙台市民によるごみ資源化に対する評価:問27)。「仙台市や仙台市民による、ごみの資源化は、他都市と比べて、進んでいると思いますか、それとも遅れていると思いますか」との問に対し、「かなり進んでいる」「やや進んでいる」を合わせて約26%、「かなり遅れている」「やや遅れている」を合わせて約23%と、両方の評価が拮抗している。しかし「どちらともいえない」が51%と、判断材料の少なさがうかがわれる。

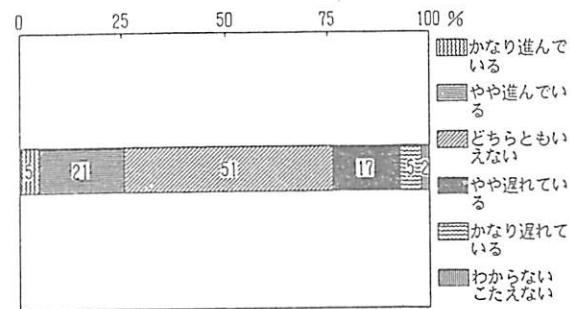


図2.19. 仙台市や仙台市民によるごみ資源化に対する評価 (問27)

次に、従来のポリバケツ（泉区を除く）を補完する形で導入された透明指定袋であるが、現行の収集制度に対する個別評価（問28）で「市販の指定袋の値段について」と「指定袋が透明であることについて」質問を行った。

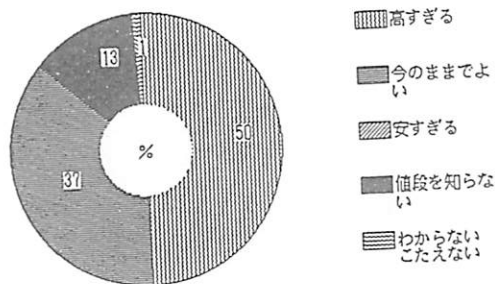


図2.20. 市販の指定袋の価格評価（問28A）

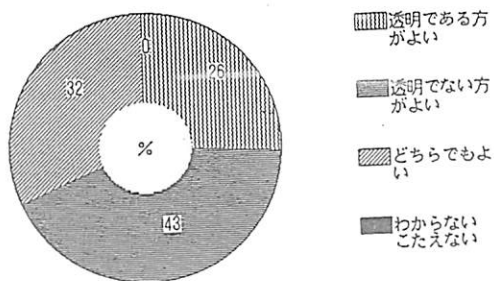


図2.21. 市販の指定袋が透明であることの評価（問28B）

図2.20で示した通り、回答者の50%が「高すぎる」との印象を持っている。また図2.21では、「透明でない方がよい」との意見が43%を占めることが分かり、いずれかの不満を持つ市民が多いようである。

指定袋の値段については女性の56%、男性の36%が「高すぎる」としており、特に

女性の不満が目だつ。

指定袋が透明であることについては29歳以下の61%が「透明でない方がよい」としており、続く30歳代の48%、40歳代の43%を大きく上回っている。また学生の63%も同様に「透明でない方がよい」としており、続く「常時雇用されている一般従業員」の45%、「臨時雇用、パート、アルバイト、内職」「専業主婦」の44%と評価の相違を際立たせている。

これらの不満が透明袋の普及に影響を及ぼしているかどうかについては、別に検討を要するところである。

さらに現行の収集制度に対する個別評価（問28）では、「家庭ごみ」「空き缶・空きびん」「粗大ごみ」の3種類のごみ収集回数と分別区分についても質問を行った。

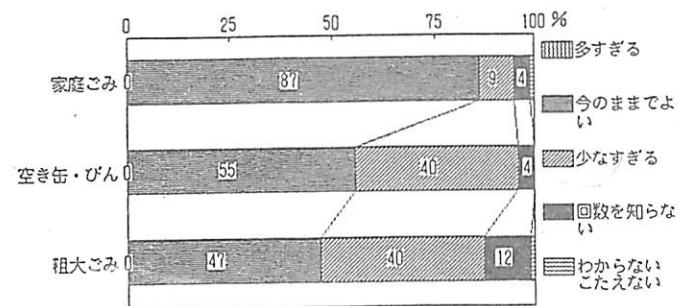


図2.22. 収集回数についての評価（問28 C～E）

まず収集回数について見てみよう。『仙台市一般廃棄物処理基本計画』（1991、仙台市環境事業局）によれば、泉区のごみ処理を行っている現在の松森環境センターがプラスチック類などの焼却に対応できないため、「もやせるごみ」週3回、「もやせないごみ」週2回の分別収集を行っているとのことである。その他の地区は「家庭ごみ」として週3回の収集を行っており、両者の収集回数に差があるものの、ここでは「現行収集回数についての満足感」という観点から、まとめて評価を求めている。なお、「粗大ごみ」は全市で年4回、「空き缶・空きびん」は2週間毎に1回の収集が行われている。

さて、家庭ごみに関しては、現状肯定派が大多数を占めている。それに対して、空き缶・空きびん、粗大ごみについては、「今のままでよい」「少なすぎる」という評

価がほぼ同水準である。

また、粗大ごみの収集回数を知らないという回答者も1割程度、存在していることに注意しなければならない。特に20歳代の27%、学生の39%が「回数を知らない」としている。

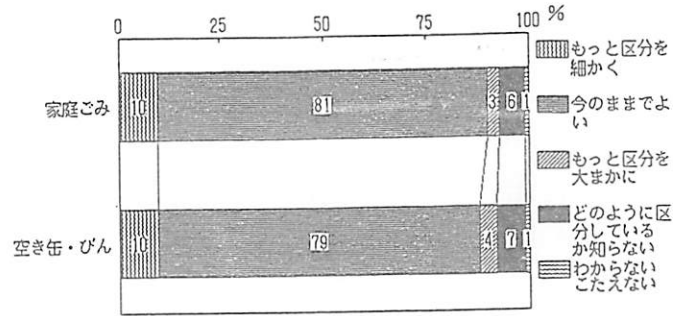


図2.23. 分別の区分についての評価 (問28 F~G)

家庭ごみと空き缶・空きびんの分別区分については、図2.23から分かるように、「今のままでよい」という回答が8割を占めている。

家庭ごみの分別区分について、30歳代の17%は「もっと区分を細かくすべきだ」としており、他の年代に比べて分別への積極的な姿勢がうかがわれる。

空き缶・空きびんの分別区分については、20歳代で12%、30歳代で14%と、「もっと区分を細かくすべきだ」という意見が他の年代を上回っている(すべて1割未満)反面、20歳代の14%が「どのように区分しているか知らない」としており、20歳代の姿勢に分化傾向が見られる。

集積所までの距離に関する質問(現行の収集制度に対する個別評価:問28)では、92%が「今のままでよい」としており、「遠すぎる」の5%、「近すぎる」の2%を大きく凌いでいる(図は省略した。「わからない・こたえない」は1%)。

さて、これら個別の評価とは別に、市民は仙台市のごみ収集・処理事業について、どのような総合評価を下しているのでしょうか。仙台市のごみ収集処理事業に対する評価(問29)で、100点を満点として採点してもらった。図2.24がその結果をまとめたものである。高得点を付ける回答者が多く見られた。最も多かったのは80年代であるが、50点未満の評定をした回答者も若干見られるために、平均点は80点よりやや低く約75点であった。

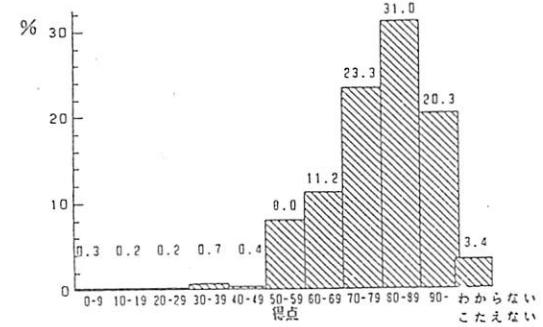


図2.24. 仙台市のごみ収集処理事業に対する評価 (問29)
(平均値 74.7 標準偏差 15.0)

また、ごみ収集・処理事業とは別に、仙台市の行政に対する信頼感(問36)では、「あなたは、仙台市の行政全般について、どの程度信頼できると思いますか」として、行政一般の信頼度についても質問を行っている。

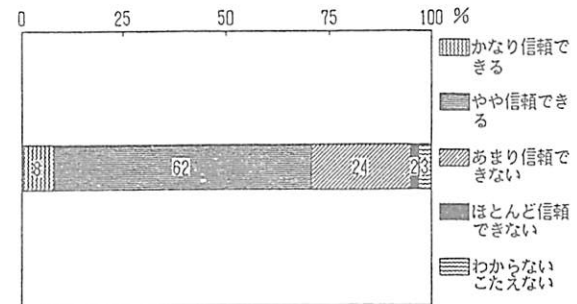


図2.25. 仙台市の行政に対する信頼感 (問36)

「かなり信頼できる(8%)」「やや信頼できる(62%)」を合わせて約7割(71%)であるが、一方、「あまり信頼できない(24%)」「ほとんど信頼できない(2%)」と答えている人も3割弱(26%)いる。

2.3. 費用負担・労力負担に対する態度

ごみ問題の対策のために、金銭的負担あるいは労力的負担を必要とする場合があると考えられる。本調査にはここでとりあげる以外にも、労力的負担についての質問（問26、問30など）が含まれているが（これらについては2.1.4.を参照）、ここでは金銭的負担に関する項目を中心に検討する。

現在、仙台市では、生活ごみの収集・処理は、臨時多量ごみを除いて、特に料金を徴収せずに税金でまかなっている。本調査では、このような費用の負担方法を「公平」という基準によって評価してもらった（問31）。さらに費用負担に関しては、行政が住民のためにおこなう事業の費用（問32）、及び、ごみの収集・処理に必要な費用（問35）について、どのような負担の仕方（負担原理）を公平と思うかを尋ねた。また、「通常のごみ」、「空き缶・空きびん」、「粗大ごみ」について、有料化に対する意識（問34）を尋ねている。このほか、今後のごみ問題の対策について、金銭的・労力的負担に対する態度（問33）を測定した。

ごみの収集・処理費用負担の公平感（問31）をみると、「公平だ」（37%）、「どちらかといえば公平だ」（48%）を合わせて、8割以上の回答者が、現在の費用の負担を『公平だ』と感じている。一方、14%の回答者が『公平でない』と評価している。回答者の性別、年齢、従業上の地位、世帯収入などの属性による違いは、ほとんどみられない。

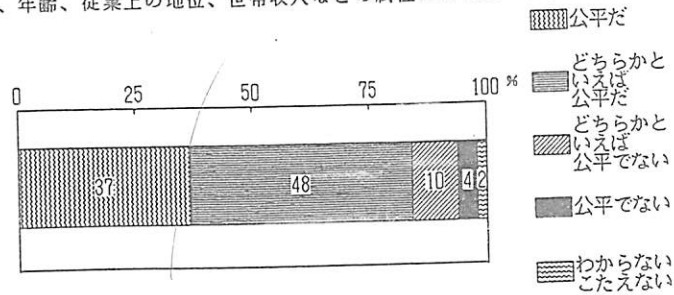


図2.26. ごみの収集・処理費用負担の公平感（問31）

公平な費用負担原理（住民のための事業一般：問35）をみると、回答の多い負担原理は〔経済的な余裕に比例して〕〔受ける恩恵に比例して〕〔誰もが同じ額だけ〕等で、それぞれ3割前後を占める。一方、〔負担したい額だけ〕という回答は4%と少ない。

このうち、〔経済的な余裕に比例〕する負担原理は、20歳代で47%、30歳代で36%と比較的若回答者で選ばれる割合が高く、学生の回答者では過半数（55%）が選択している。また、相対的に世帯収入の少ない回答者の選択率が高い。これに対し、〔恩恵に比例して〕を選択する割合が特に高いのは、50歳代（41%）と60歳代（42%）である。

相対的には世帯収入の多い回答者のほうが選択率が高い（600万円以上の回答者では4割前後）。また、世帯収入800万円以上の回答者では〔誰もが同じ額〕という回答が3割以上を占め、800万円未満の回答者に比べて選択率が高い。

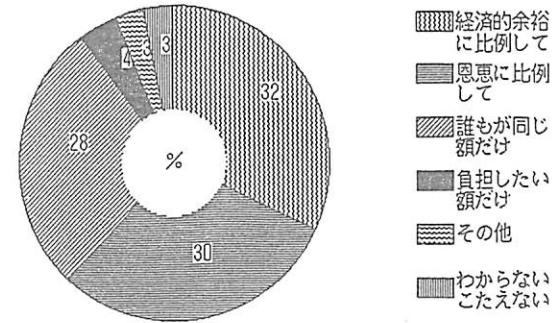


図2.27. 公平な費用負担原理（住民のための事業一般：問35）

公平な費用負担原理（ごみの収集・処理：問32）では、〔世帯の収入に比例して〕という回答は少なく（9%）、〔ごみの排出量に比例して〕（30%）、〔各世帯が同じ金額〕（29%）、〔世帯の人数に比例して〕（23%）という回答が多い。ここでも、〔負担したい額だけ〕という負担原理を公平と考えた人はもっとも少ない（2%）。

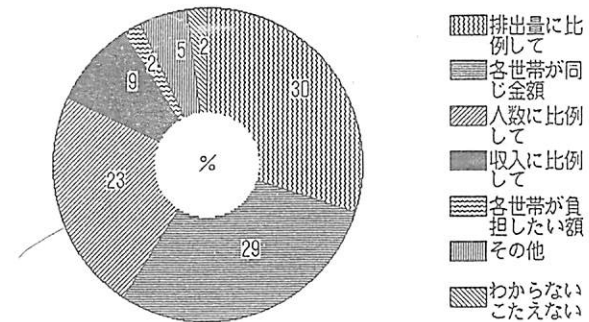


図2.28. 公平な費用負担原理（ごみの収集・処理：問32）

回答者の属性別にみると、〔排出量に比例して〕を選んだ割合が高いのは、相対的に世帯収入の多い回答者であり、学生の選択率も高い（38%）。〔世帯ごとに同じ額〕は、30歳代（36%）や40歳代（31%）で選択率が高い。また、「臨時雇用、パート、アルバイト、内職」や「自営業主または家族従業者」、「専業主婦」といった属性の回答者で選択される割合が高い（それぞれ35%、34%、33%）。また、相対的に世帯収入の多い回答者の選択率が高い。〔世帯の収入に比例して〕は、世帯収入の多い回答者ほど選択率が低い傾向にある。

有料化許容意識（問34）をみると、粗大ごみについては、「有料化してもよい」という意見が約7割（69%）を占める。これに対して、通常のごみと空き缶・空きびんについては、有料化を許容する回答者はそれぞれ9%、13%にとどまり、通常のごみでは69%、空き缶・空きびんでは57%の回答者が「有料化すべきでない」と考えている。また、粗大ごみで18%、通常のごみで20%、空き缶・空きびんでは29%の回答者が、「どちらともいえない」と答えている。

さらに詳しく回答者の属性別に検討すると、通常のごみと空き缶・空きびんについては、高い年齢層のほうが有料化にやや肯定的である。また、世帯収入が多い回答者は、通常のごみの有料化には、寛容であるという傾向がみられる。

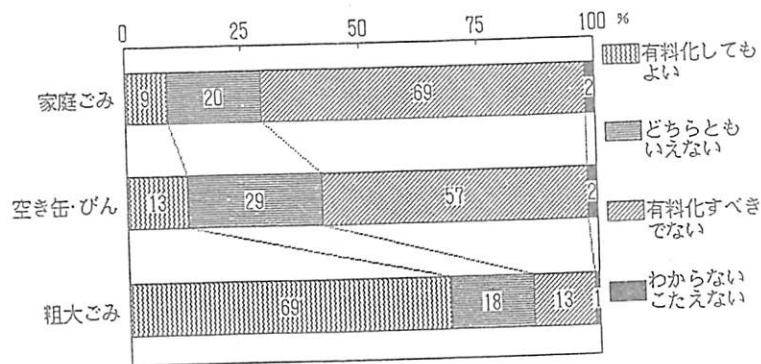


図2.29. 有料化許容意識（問34）

最後に、金銭的・労力的負担に対する態度（問33）では、「どちらも求められない」、「労力的な負担であればよい」という回答者がそれぞれ28%、「金銭的な負担であればよい」が26%であり、「どちらも求められてよい」という回答者は2割弱（17%）である。

これを男女別に比較すると、女性では〔労力的負担〕（30%）を選ぶ割合が、〔金銭的負担〕（24%）を上回っているが、男性の場合には逆に〔労力的負担〕（21%）よりも〔金銭的負担〕（30%）を選ぶ割合が高い。40歳以上の回答者は〔労力的負担〕よりも〔金銭的負担〕を選ぶ割合が高く、世帯収入の多い回答者は、「どちらも、求められてよい」の割合が比較的高くなっている。

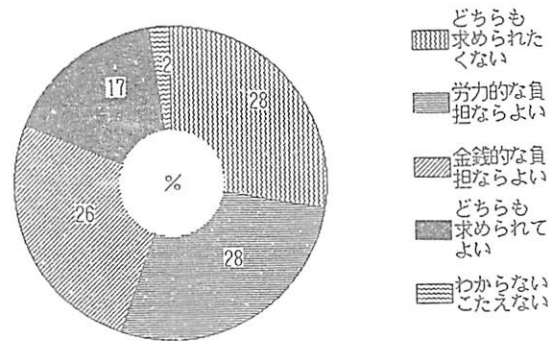


図2.30. 金銭的・労力的負担に対する態度（問33）

費用負担および労力負担に関する項目についての概観から、今後の分析についていくつかの示唆が得られる。

現在の費用負担に対しては、多くの回答者が『公平だ』と考えている。一方、問32や問35をみると、公平と考えられている負担原理は、回答者の属性による違いもみられ、多様なものであるといえる。今後は、どのようなメカニズムによって、人々は特定の負担原理を公平と考えるのかを検討する必要がある。

同様に、金銭的負担と労力的負担に対する態度にも、回答者の属性による多様性がうかがえる。今後、人々の協力を得られるごみ問題対策を講じるには、このような多様性を考慮することが重要であろう。

最後に、有料化に関しては、許容の割合が最も高い粗大ごみに関しても、「どちらともいえない」「有料化すべきでない」を合わせて、約3割の回答者が許容していないことに注目すべきではある。有料化に反対、もしくは態度を保留しているのはどのような人々かをさらに詳しく検討するとともに、今後は、いかなる条件のもとで有料化が許容されるのかを確認することが必要と思われる。

2.4. 回答者の特性

2.4.1. 基本属性

人々の持つ様々な特性と、ごみ問題に対する行動や意識を関連づけて分析するため、基本的な属性について、①回答者個人に関する質問、②ごみ排出の単位である世帯に関する質問、③回答者の日常生活に関する質問を設定した。まずはじめに、回答者の個人的特性について見てみよう。

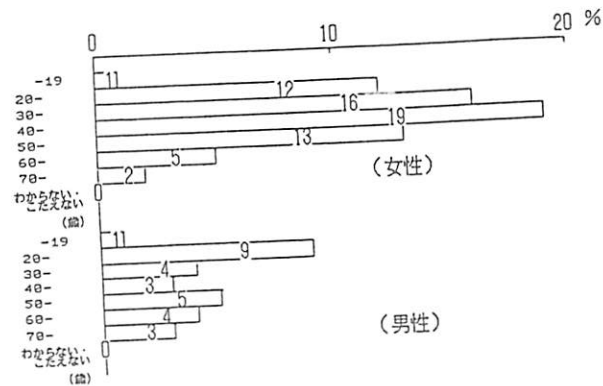


図2.31. 回答者の年齢 (問40B)

回答者の7割が女性であり3割が男性であった (回答者の性別 問40A: 図は省略)。女性で最も多いのは40歳代であり、30歳代から50歳代までで女性の7割 (回答者全体の5割) を占めている (回答者の年齢 問40B)。一方、男性で最も多いのは20歳代であり、男性の3割 (回答者全体の1割) を占めている。回答者の学歴 (問41) として、4割強が「新制高校 (旧制高等女学校なども含む)」中退を含む最終学歴を尋ねた。2番目に多いのが「大学 (大学院も含む)」であり、これは2割弱を占める。「専門学校」「短大・高専」がこれに続いている。また、現在の回答者の従業上の地位 (問42) としては、「専業主婦」あるいは「常時雇用されている一般従業員 [常時雇用]」であると答えた人が多く、それぞれ3割ずつとなっている。「臨時雇用」が1割強でこれに続いている。

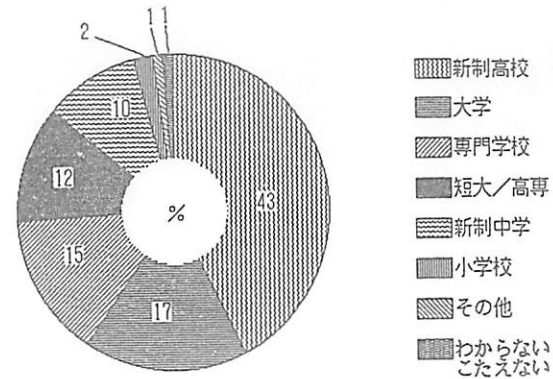


図2.32. 回答者の学歴 (問41)

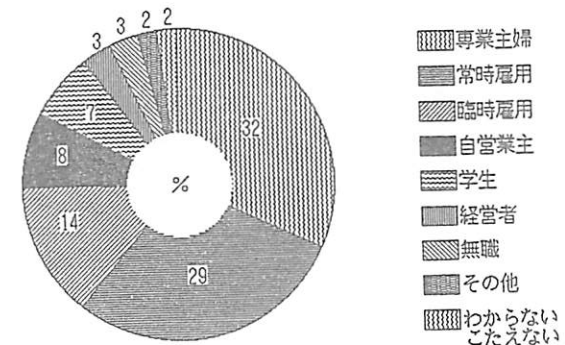


図2.33. 回答者の従業上の地位 (問42)

ごみの排出ルールは自治体によって様々である。したがって、仙台市に住んで間がない人々や、数年ごとに転動を繰り返している人々には、排出ルールを徹底しにくい、ということが考えられる。そこで、対象者全員に、仙台市での居住年数 (問1) と仙台に住む前の前住地 (問2) を質問した。なお、ここでいう仙台市には、合併前の旧泉市、宮城町、秋保町を含んでいる。

居住年数 (問1) では、5年未満 (0~4年) であるという回答が3割弱で比較的多い。5年以上10年未満 (5~9年) は1割、10年以上20年未満 (10~19年) は2割となっている。20年以上という回答はほぼ4割となる。前住地 (問2) では、東北地

方である回答者が合計で7割弱を占めている。そのうち、「生まれてからずっと仙台市（旧泉市、宮城町、秋保町を含む）」という回答者が19%を占めている。仙台以外の宮城県の各地であるという回答は23%、宮城県以外の東北5県から、という回答は26%である。それ以外では、2割弱が関東に住んでいたと回答した。

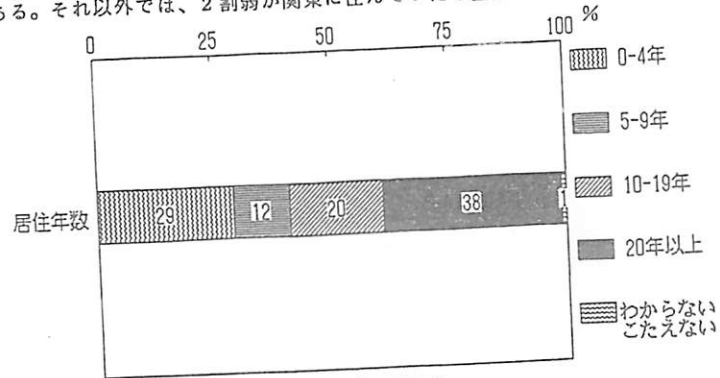


図2.34. 居住年数 (問1)

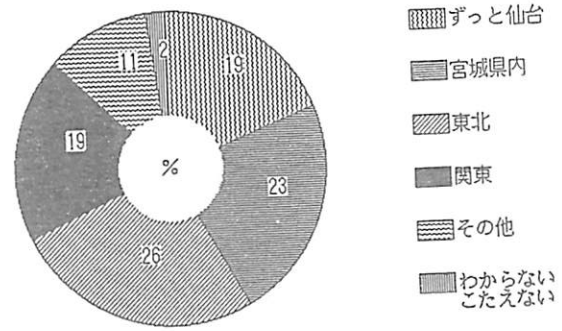


図2.35. 前住地 (問2)

次に、ごみ排出の単位である世帯の特性を見てみよう。同居家族数(問37)では、調査票記入者本人を含めた家族の人数を尋ねている。「1人」「2人」「3人」「4人」という回答がそれぞれほぼ2割ずつを占めているが、中でも「1人」(単身者)の割合が24%と比較的高い。「5人」という回答者は1割弱いるが、世帯人数が6人以上という回答はかなり少なくなっている。

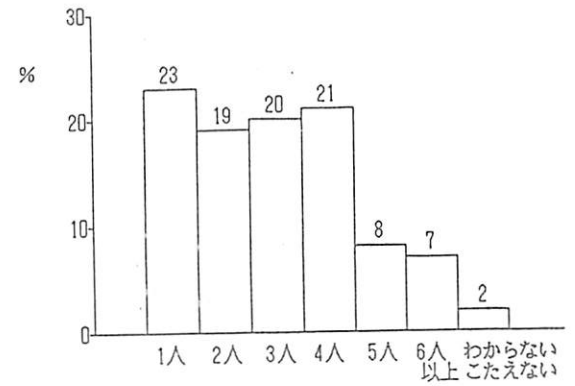


図2.36. 同居家族数 (問37)

調査では、当該世帯で同居している家族の中で最も収入の多い人を家計支持者として、家計支持者に関する質問を4つ設けた。家計支持者の続柄(問38A)では、「夫または妻」という回答が5割を占めた。これに続いて多いのが「本人」という回答で、4割弱を占める。一方、「子供」「父または母」(いずれも義理の関係を含む)であるという回答は少ない。家計支持者の従業上の地位(問38B)をみると、「常時雇用されている一般従業員」とであると答えた回答者が多く、6割を占めている。「自営業主および家族従業者」とである回答者が1割強でこれに続いている。「臨時雇用」「専業主婦」「無職」という回答は少なくなっているが、「無職」が5%を占めており比較的多い。

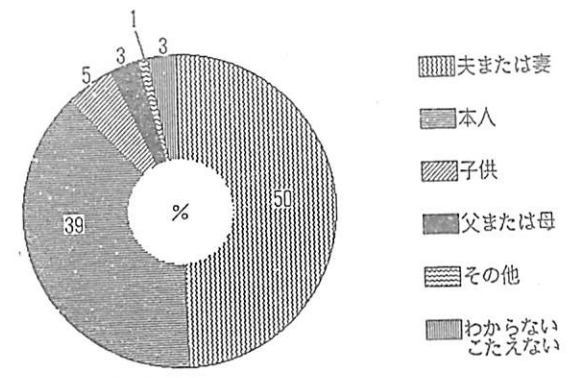


図2.37. 家計支持者の続柄 (問38A)

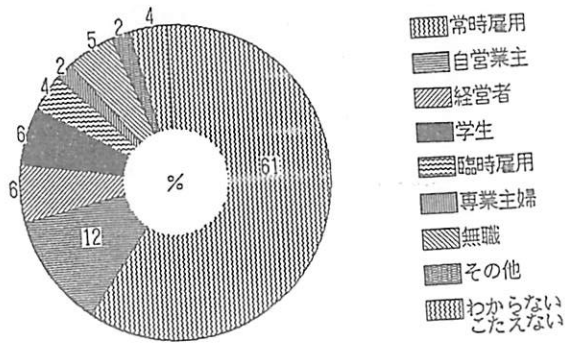


図2.38. 家計支持者の従業上の地位 (問38B)

また、家計支持者の従業先の規模 (問38C) では、「会社」全体の従業員数が「1~499人」であるという回答が最も多く、4割強を占めている。次に多い「1000人以上」という回答は1割半であった。従業員数が「なし」、あるいは「500~999人」であるという回答は少なく、それぞれ1割に満たない。「官公庁(公務員)」は、ほぼ1割を占める。最後に、家計支持者の職業 (問38D) では、〔専門的職業〕〔販売的職業〕〔熟練・労務的職業〕〔事務的職業〕の4カテゴリーがほぼ2割ずつを占めている。中でも〔専門的職業〕と答えた人が比較的多い。〔管理的職業〕〔無職〕という人は少なく、それぞれ1割強である。〔農林水産業〕という回答はほとんど0であったので、図中には現れていない。

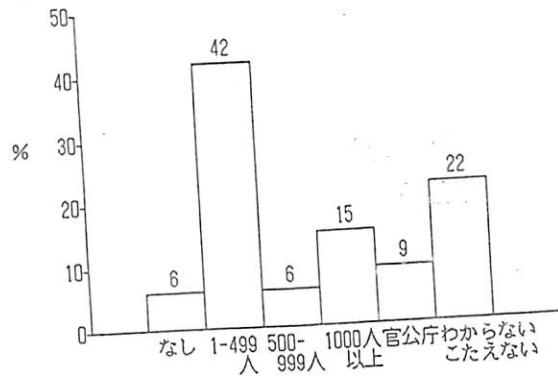


図2.39. 家計支持者の従業先の規模 (問38C)

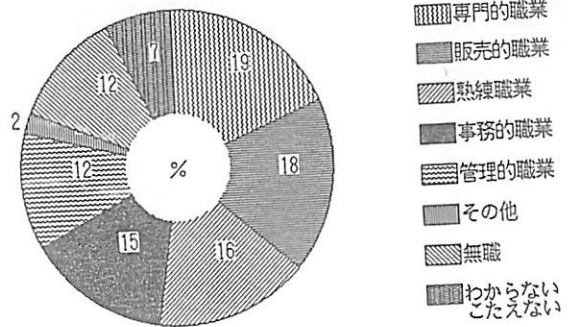


図2.40. 家計支持者の職業 (問38D)

世帯収入 (問39) についても質問した。世帯の1年間の税込みでの収入を、100万円単位の選択肢を提示して回答してもらった。分布にはさしたる規則性はみられないが、200万円から600万円の間、という回答が多く、合計で5割強を占めている。「100万円以上200万円未満」「1000万円以上」という回答も、それぞれ1割近くを占めており、比較的多いといえる。

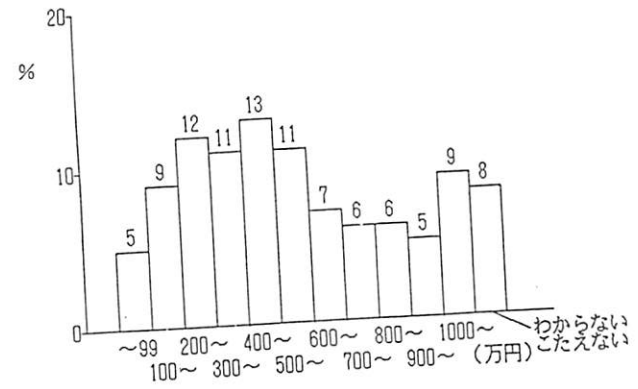


図2.41. 世帯収入 (問39)

居住形態（問43）では、次のリストを提示し質問した。

- 1 持ち家（一戸建て）
- 2 持ち家（中高層集合住宅）
- 3 借家（一戸建て）
- 4 借家（民間木造アパート）
- 5 借家（民間鉄筋アパート・マンション）
- 6 借家（公社・公団・公営住宅）
- 7 社宅・官舎・独身寮
- 8 下宿・間借り・住み込み・寄宿舎
- 9 その他

「持ち家（一戸建て）」という回答が最も多く、4割強を占める。次に多いのが「借家（民間木造アパート）」「借家（民間鉄筋アパート・マンション）」であり、両方を合わせると3割弱となる。一方、「下宿・間借り・住み込み・寄宿舎」という回答者は2%で少ない。ごみ処理との関わりという点から、回答を『一戸建て（持ち家、借家）』『集合住宅（中高層集合住宅、民間アパート・マンション、公社・公団・公営住宅）』『その他（社宅、下宿など）』の3つに分類してみると、「一戸建て」の比率が高く5割を占め、「集合住宅」は3割強となっている。

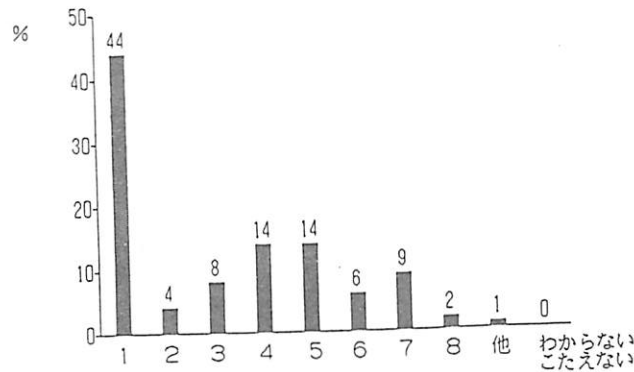


図2.42. 居住形態（問43）

最後に、回答者の日常生活に関して、買物に利用する店舗（問19）と生活時間（問3）について概観しよう。買物に利用する店舗（問19）では、食料品や生活雑貨などの購入に利用する店舗の頻度をそれぞれ回答してもらった。〔スーパー〕の利用頻度が最も高く「ほとんど毎日」「週に数回」の利用を合わせると7割強を占めている。〔コンビニ〕〔専門店〕は毎日というよりも週に数回、月に数回という頻度で利用されることが多いようである。また、〔デパート〕を利用するのは「月に数回」という人が5割近くを占める。〔生協店舗〕〔共同購入〕については、組合員制ということもあるだろうが、「ほとんど利用しない」という回答者も多い。

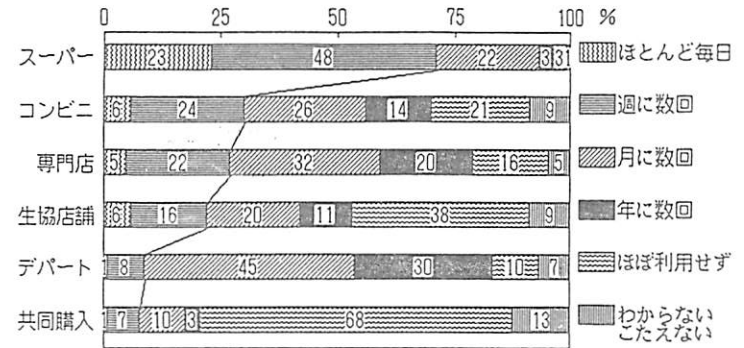


図2.43. 買物に利用する店舗（問19）

生活時間は人々の行動に対して様々な影響を持っていることが予想される。例えば、労働時間が短く、家にいる時間が長い人ほど、ごみの分別をきちんとやるかもしれない。あるいは、自由に使える時間が少ないため、社会に対して協力的な行動をとろうとしても、その余裕がない人がいることも考えられる。そこで今回の調査では、平日の1日平均の、通勤時間を加えた労働時間と、家事に使う時間、睡眠時間を聞いている。本来は休日の生活時間や余暇時間についても質問すべきだが、調査票のスペースの制約などのためこのような形式を取った。なお、実際の回答には1.5などの小数点以下を含んだものもあるが、データを入力する際、小数点以下は四捨五入している。

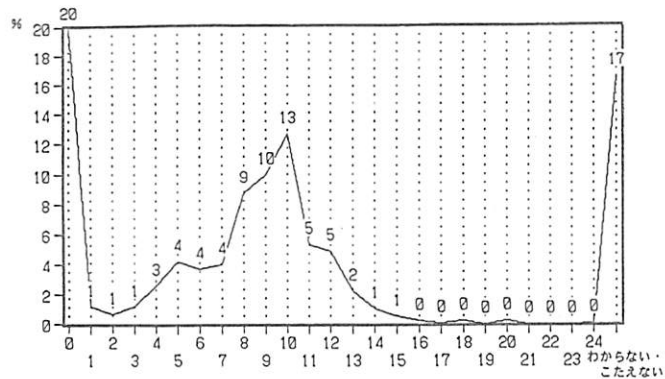


図2.44. 労働時間 (問3A)

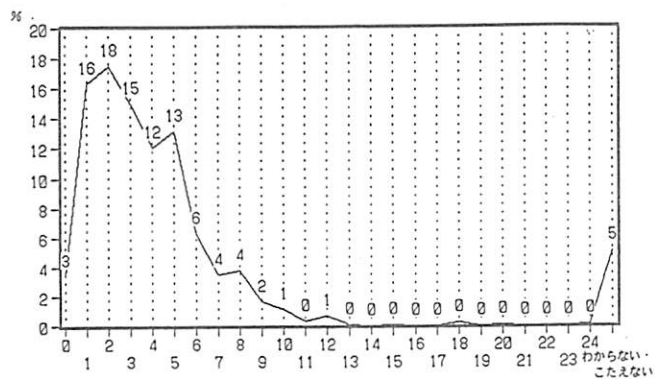


図2.45. 家事を行うために必要な時間 (問3B)

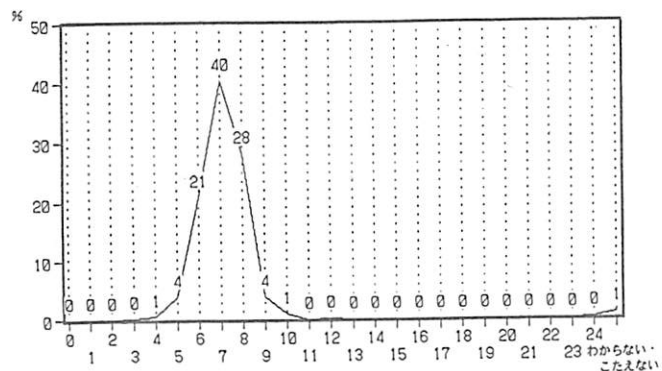


図2.46. 睡眠時間 (問3C)

労働時間の分布を見ると、8～10時間という回答は合計で全体の32%となるが、4～7時間という回答は合計15%、11～12時間という回答も合計10%あり、いくつかの層に分かれているようである。0時間という回答が多いのは、今回の調査は家事担当者に回答をお願いしているためと思われる。無回答も多いが、この中には労働時間が0なので記入しなかった人が含まれていると思われる。

労働時間とごみ問題への対処行動(問9)との関連を見たところ、一般的に労働時間が短い人ほど各種の行動をすると答える傾向があったが、これは、主婦層が常時雇用者などに比べて実行しているという回答が多いためかもしれない。また、問9は個人についてではなく世帯についての質問であるので、個人の生活時間の間と単純に比較できない。属性別に分析するなど、さらなる検討が必要と思われる。

家事を行うために必要な時間は、1～5時間と答えている人が各15%前後で、合計で全体の7割以上となる。睡眠時間については、6～8時間という回答が合計9割となる。

2.4.2. 社会意識

基本的な社会意識は、回答者の特性を把握するうえで重要である。また、間接的には、ごみ問題に対する意識や行動に関連している可能性もあると思われる。

本調査では、「満足」という基準に対して、社会全般および個人の生活に対する評価を尋ねた。また、社会全般に対しては、「公平」という基準によって評価してもらい、さらにどのような領域について不公平感を抱いているかを尋ねた。加えて、社会全体における自己の評価である階層帰属意識を尋ねている。このほか、人々の価値観や社会(政治)に対する態度を測定するために、生活価値意識と政治的有効性感覚に関する質問を配した。

まず各々の質問に対する回答を概観し、その後、本調査の回答者の特徴を明確にするために、同じ質問に対する2年前の調査の結果との比較をおこなう。

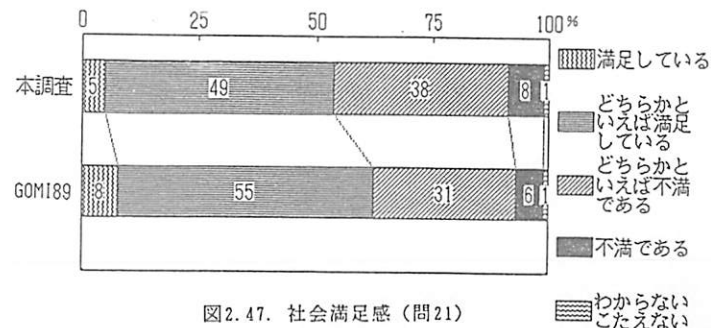


図2.47. 社会満足感 (問21)

現在の日本社会に対する満足感を問う社会満足感(問21)をみると、過半数(54%)の人は『満足』と答えている。しかし、このうち「満足している」という回答はわずか5%であり、多く(49%)は「どちらかといえば満足している」という回答である。一方、『不満』という回答についても、「不満である」のは8%であり、「どちらかといえば不満である」という回答が多い(38%)。明確に満足あるいは不満を抱いている人は少ないが、肯定的な評価のほうが若干多いようである。

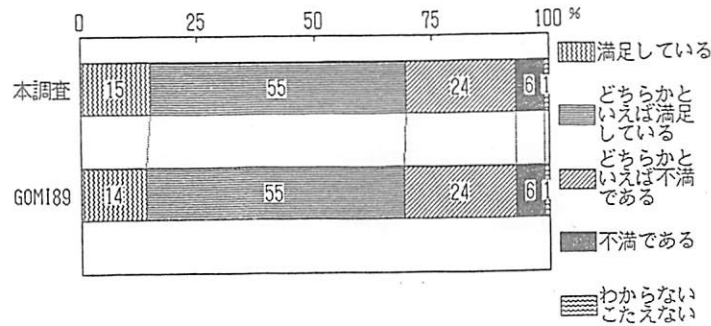


図2.48. 生活満足感(問22)

現在の自分の生活に対する満足感を問う生活満足感(問22)では、「満足している」という回答が15%を占め、「どちらかといえば満足」と合わせると、70%の人が『満足』と答えたことになる。『不満』という回答は30%であり、そのなかで「不満である」という人は6%である。問21と比較すると、個人的な生活に対しては、日本社会全体に対してよりも、満足している人が多いといえるだろう。

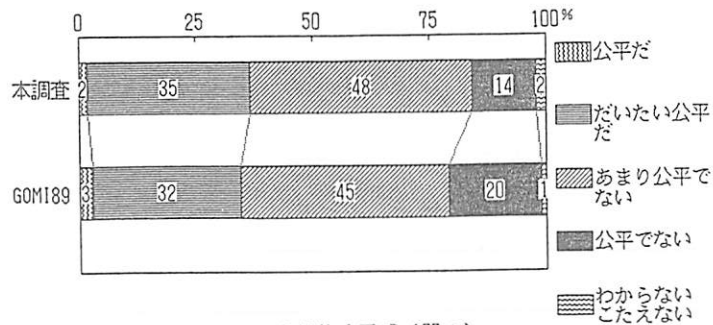


図2.49. 全般的公平感(問4)

次に、日本社会の公平さの評価、全般的公平感(問4)をみてみよう。この問いに対しては、「あまり公平でない」(48%)と「公平でない」(14%)を合わせ、回答者の62%が『公平でない』と答えている。一方、『公平だ』という回答は37%で、このうち「公平だ」という人は2%に過ぎない。

では、社会のどのような領域に、人々は不公平を感じているのであろうか。領域別不公平感(問5)では、「学歴による不公平」を指摘した人がもっとも多く(64%)、職業(48%)、貧富(47%)、性別(47%)などについても半数近くの人々は、不公平が存在すると感じている。以下、不公平を感じる人の多い順に、年齢(34%)、地域(32%)、人種・民族(27%)、家柄(23%)と続き、思想・信条に関して不公平を感じる人は10%である。

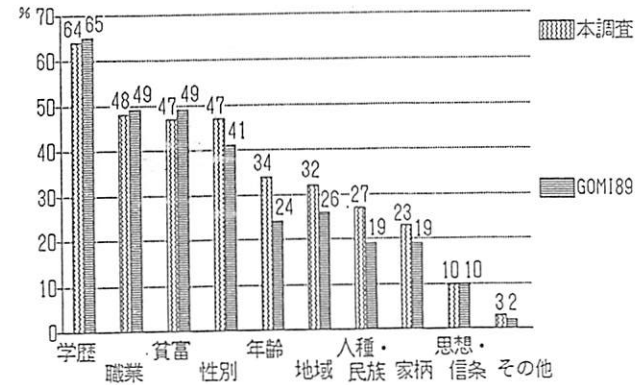


図2.50. 領域別不公平感(問5)

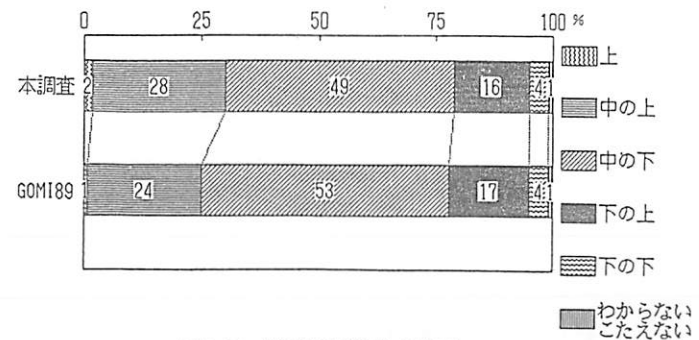


図2.51. 階層帰属意識(問23)

このように認知した社会のなかに、人々は自分をどのように位置づけているであろうか。階層帰属意識（問23）をみると、もっとも多いのは、49%の人が回答した「中の下」である。以下、「中の上」（28%）、「下の上」（16%）と続き、「下の下」には4%、「上」には2%の人が回答している。

生活価値意識（問6）をみると、多くの人が『重要である』と考えているのは、「人並に暮らすこと」（77%）、「高い収入を得ること」（75%）、「のんびり暮らすこと」（67%）、「趣味に打ち込むこと」（60%）などである。一方、「仕事に生きること」に対する『重要』という回答は46%であり、「高い地位につくこと」に対しては28%ととっても少ない。また、「仕事に生きること」「高い地位につくこと」に関して、それぞれ約3割が「どちらともいえない」と回答し、判断を保留している。

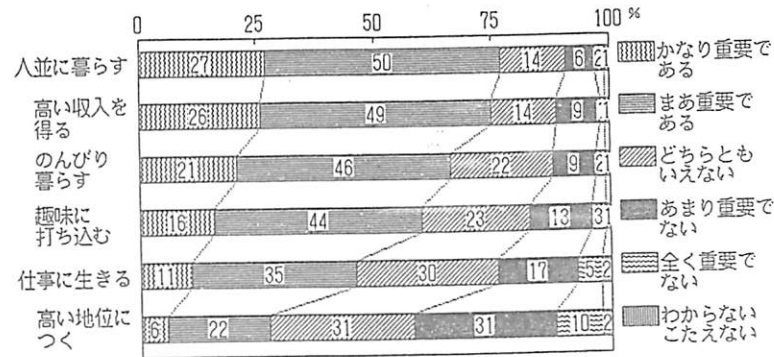


図2.52. 生活価値意識（問6）

政治に対する態度についての項目、政治的有効性感覚（問20）では、4種類の意見に対する賛否を尋ねている。このなかで『そう思う』という回答がもっとも多いのは「われわれが少々がんばっても政治はよくなるものではない」（53%）である。「政治に熱を入れるより自分の仕事に精を出したほうがよい」という意見に対して『そう思う』（48%）という回答が、『そうは思わない』（19%）を上回っている。「政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない」については回答が二分しているが、「政治のことはやりたい人にまかせておけばよい」については『そうは思わない』という否定的な回答（45%）のほうが多い。

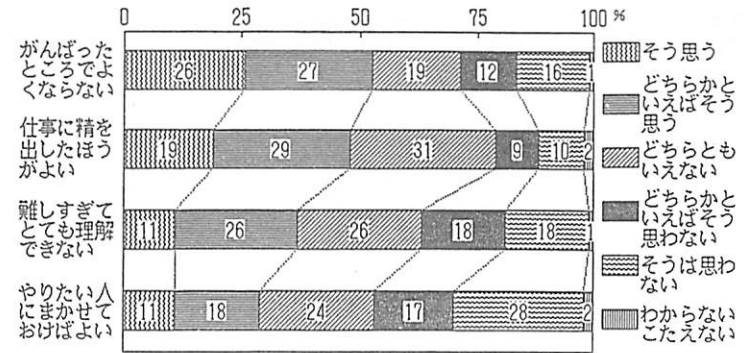


図2.53. 政治的有効性感覚（問20）

本調査の回答にみられる社会意識には、どのような特徴があるのだろうか。同じ問いに対する、1989年の『生活環境（ごみ等）に関する市民意識調査』（以下「GOMI89」と略記）に対する回答と比較してみよう。（本調査の回答者の基本属性は、20歳代の回答者の占める割合がやや高いことを除けば、GOMI89の仙台市全体データとほぼ同じである。なお、政治的有効性感覚に関する問いは、GOMI89には含まれていない。）

図2.47.をみると、社会満足感に対する『満足』という回答は、GOMI89よりも本調査のほうが、約1割少ない。これに対し、生活満足感についての回答は（図2.48.を参照）、GOMI89とほぼ同じ傾向にある。

領域別不公平感については（図2.50.）、GOMI89に比べて、本調査のほうが「性別」「年齢」「地域」「人種・民族」による不公平を指摘する割合が高く、ほとんどの領域で指摘率は低下はしていない。しかし、全般的公平感（図2.49.）では、『不公平だ』とする回答の割合はGOMI89とほぼ同じである。

社会満足感と生活満足感、あるいは領域別不公平感と全般的公平感との関係、またそれぞれの規定因については、さらに詳しい分析が必要であろう。

階層帰属意識もほぼ同じ分布を示しているが（図2.51.）、「中の上」の割合は本調査のほうがわずかに高い。

最後に、生活価値意識もGOMI89（図は省略）とほぼ同じ傾向がみられるが、「人並に暮らすこと」「仕事に生きること」に対する『重要』という回答の割合がそれぞれ約1割ずつ低くなっている。

3. まとめと今後の展望

以上で概観してきたことを本調査の目的に即して簡単にまとめ、今後の課題を提示しよう。本調査の回答者のうち7割が女性であった。女性の半数は専業主婦である。臨時または常時働いている女性がそれぞれ女性の2割程度いる。男性のうち4割が常時雇用である。女性は40歳代が、男性は20歳代が最も多い。

さて、調査の第一の目的は、現行のごみ処理システムの利用状況とそれに対する市民の評価を明らかにすることである。分析の結果、家庭ごみ排出のルールを守っている回答者が多くみられた。特に、指定袋の導入によって9割以上の回答者が排出容器を守るようになったことが明らかとなった。排出容器を守っている理由としては「市の決まりだから」との回答が多かったが、「[集積所が汚れる] [収集者に迷惑になる]」といった、他者への悪影響を考慮する回答も若干みられた。容器と比べると比率は若干低いが、8割弱の回答者が排出時間を守っている。また、乾電池の回収を除いてはリサイクルルートが確立されている資源回収の実行率は、「過剰包装を断わる」といった購買時のごみ問題対処行動の実行率よりも高い傾向がある。

現状肯定的な評価を受けた制度は「家庭ごみ収集回数」「家庭ごみや空き缶・空きびんの分別区分」「集積所までの距離」である。一方で「指定袋の値段と透明性」「空き缶・空きびんの収集回数」「粗大ごみの収集回数」については、現状への不満をもっている回答者と現状でよいとする回答者がほぼ同程度みられた。回答者のうち8割強がごみの収集・処理のための費用負担を『公平である』と評価している。また、仙台市の行政全般に対して7割が『信頼できる』、3割弱が『信頼できない』と回答した。

調査の第二の目的は、現在以上のコスト負担（分別の細分化といった労力的負担や金銭的負担）が可能な条件を明らかにすることである。〔生活ごみ有料〕以外の対処行動では、半数以上の回答者が『協力できる』と回答しているのに対して、〔生活ごみ有料〕では3割程度が『協力できる』と回答するにとどまった。ごみ収集処理費用の公平な負担原理としては「排出量に比例して」「各世帯が同じ金額で」がそれぞれ3割、「人数に比例して」が2割強の回答者から指摘された。ごみ問題の対策のために求められてもよい負担方法として7割の回答者は「金銭的負担」「労力的負担」のどちらか、あるいは両方を求められてよいとしているが、どちらの負担も求められにくいとする回答者も3割弱みられた。

今後の課題としては次の二点が挙げられよう。まず、第一点は現行のごみ排出ルールやリサイクル制度の実効性を検討することである。家庭ごみ排出ルールを守る回答者は多く、リサイクルも〔電池回収〕を除けば多くが実行している。このような現状でごみの減量化・資源化が進んでいけば問題はないが、それにも関わらずごみが増加しているとしたら、現在以上の協力を市民に求めることが必要となつてこよう。同時

に、実行率が低い行動やルールを守っていない（守ることができない）人々の行動変容策を検討することももちろん必要であろう。中にはたとえば、購買時におけるごみ減量化の促進のように、個人の努力だけではなく、社会の仕組みを改善しなければ解決できない問題も含まれよう。課題の第二点は「公正」な制度の検討が必要であるという点である。現行のごみ収集・ごみ処理費用については8割以上の回答者が公平であると回答しているが、一方で、公平な費用負担原理としては〔収入に比例して〕〔排出量に比例して〕など、いくつかの原理に回答が分かれる傾向がみられた。また、それぞれの費用負担原理を支持する人々の属性が異なることが明らかとなった。それぞれの立場を尊重しつつ、社会全体として最適なごみの収集処理制度を模索することが今後必要となろう。

われわれは本調査の分析に手をつけはじめたばかりである。今後、回答者の特性、ごみ問題への行動、回答者の意識それぞれの間の関連をさぐることによって、上記の課題解決へなんらかの貢献ができればと考えている。

暮らしとごみに関する仙台市民意識調査

1991年9月

調査主体：生活環境研究会
(東北大学文学部行動科学研究室内)
調査協力：仙台市環境事業局

お願い

これからおうかがいする質問の中には、家庭ごみの収集に関する実態やご希望など、かなり具体的なことをお聞きするものもあります。そこで、

1) 1人世帯については、もちろんご本人に、

2) 2人以上の世帯については、家事を主に担当しておられる方に

回答していただきたいと考えております。

なお、調査についての疑問やご意見などにつきましては、下記にご連絡ください。

連絡先：生活環境研究会 (電話：224-5026 担当：小松、松野、中原)

回収について

ご記入いただいた調査票は、そのままお宅に保管し、学生調査員がお宅におうかがいした時にお渡しください。回収期間は次の通りです。

回収期間：9月26日(木)から29日(日)まで

記入上の注意

1. たいていの問は、答えの欄が一重の枠 で囲まれています。このような問への回答は、枠内の選択肢の中から、あてはまるものを一つ選び、その番号を○で囲んでください。
2. 「あてはまるものをいくつでも選んでください」といったように、複数の選択肢を選んでいただくものについては、回答欄を2重の枠 で囲んでいます。この場合には、その問の指示に従ってください。
3. なお、その他に、数字や番号・具体例などを枠内に記入していただく問がいくつかあります。そのような場合には、なるべく明確に記入してください。枠内に書ききれない場合には、欄外にご記入下さい。
4. 筆記具は、鉛筆、ボールペンなど何でもかまいませんが、必ず黒色のものをお使いください。また、回答を訂正するときには、前の答えをしっかりと消すか、×印をつけるなどして、訂正したことをはっきり示してください。
5. この調査は試験やクイズではありませんから、正しい答えや誤った答えがあるわけではありません。あなた自身のお考えをありのままに記入してください。

それでは、ご協力のほど、よろしく申し上げます。

では早速ですが、はじめにごく一般的なことについて、いくつかおうかがい致します。

問1 あなたは仙台市(旧泉市、宮城町、秋保町を含む)に何年前からお住まいですか。
【仙台市外へ引っ越しをされて、またもどってこられた方は、通算ではなく、最後に仙台に戻ってこられてからの年数をお答え下さい(例:子供の頃に10年、それから仙台を離れて、3年前に仙台にお戻りになられた、といった場合には「3年前から」とお答え下さい)】

年前から

問2 あなたは仙台に移ってこられる前には、どちらにお住まいでしたか。

1. 生まれてからずっと仙台市(旧泉市、宮城町、秋保町を含む)に住んでいる
2. 都・道・府・県
 区(東京都のみ)・市・町・村
3. 日本国外 (国名:)

問3 あなたは平日に、次のようなことに1日平均、おおよそ、どれくらいの時間を使っていますか。それぞれについてお答え下さい。

例) 8時間30分の場合は「8.5」と、ご記入いただいて結構です。

1. 収入を得るために必要な労働(アルバイト・パートを含む)に、通勤時間を加えた時間(学生の方は、学校にいる時間・通学時間・アルバイトの時間)

おおよそ 時間

2. 家事を行うために必要な時間(休憩は除く)

おおよそ 時間

3. 睡眠時間

おおよそ 時間

問4 一般的にいて、今の日本社会は公平だと思いますか。あなたの気持ちは、次のうち、どれに近いですか。

1. 公平だ 2. だいたい公平だ 3. あまり公平でない 4. 公平でない

問5 全般的な評価は別として、あなたは以下に示したような不公平が、今の世の中にあると思いますか。あると思われるものをいくつか選んで番号に○をつけてください。

- | | |
|-------------|----------------------|
| 1. 性別による不公平 | 7. 地域による不公平 |
| 2. 年齢による不公平 | 8. 思想・信条による不公平 |
| 3. 学歴による不公平 | 9. 人種・民族による不公平 |
| 4. 職業による不公平 | 10. その他 具体的に: |
| 5. 貧富による不公平 | <input type="text"/> |
| 6. 家柄による不公平 | |

問6 あなたにとって、次のようなことはどのくらい重要でしょうか。それぞれについてお答え下さい。

	かなり重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない
・ 高い収入を得ること	1	2	3	4	5
・ 高い地位につくこと	1	2	3	4	5
・ 人並に暮らすこと	1	2	3	4	5
・ 趣味に打ち込むこと	1	2	3	4	5
・ のんびり暮らすこと	1	2	3	4	5
・ 仕事に生きること	1	2	3	4	5

次に、ごみについてうかがいます

問7 あなたは、仙台市で、「ごみ問題が生じている」と感じていますか、感じていませんか。

1. 問題が生じていると、かなり感じている
2. 問題が生じていると、やや感じている
3. 問題が生じているとは、あまり感じていない
4. 問題が生じているとは、ほとんど感じていない

問8 「ごみ問題」にはさまざまな側面があります。次に挙げるいろいろな側面を、ふだん、どのくらい心配していらっしゃいますか。それぞれについて当てはまる番号に○をつけて下さい。

	非常に 心配だ	かなり 心配だ	やや 心配だ	心配 でない
・大量のごみに、焼却や埋立の能力が追いつかないこと	1	2	3	4
・ごみ処理にかかる費用のために自治体の財政が圧迫されること	1	2	3	4
①適切な処理がされないごみによって環境に悪影響を与えること	1	2	3	4
・まだ使用可能なものがごみとして捨てられて、無駄になること	1	2	3	4
・使い捨てのものが大量に消費されて天然資源が浪費されること	1	2	3	4
・生活ごみの排出ルールが守られず、集積所が汚れること	1	2	3	4

問9 下のリストの中に、お家で実行されていることがありましたら、いくつでも選んで番号に○をつけて下さい。また、1～9 以外に実行されていることがありましたら、「その他」として 10 に、いくつでもご記入下さい。

1.	電池は、仙台市や販売店の、回収容器に入れる
2.	ものが古くなっても、使えるうちは、新しいものに買い替えない
3.	家族が着られなくなった衣服などを、親戚や知人にゆずる
4.	デパートなどでの過剰包装は断る
5.	古新聞・古雑誌などを、資源回収や、ちり紙交換に出す
6.	使い捨ての商品は買わない
7.	生ごみはよく水を切って出す
8.	ごみのポイ捨てはしない
9.	空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集に混ぜて出さない
10.	その他 具体的に： <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div>

問10 あなたは、ごみの収集や処理について、近所の人と話をすることがありますか。当てはまる番号に○をつけて下さい。

1. ほとんどない 2. たまにすることがある 3. よく話題になる

問11 あなたは、同じごみ集積所（またはコンテナボックス）を利用している近所の人達と、ふだん、どのようなつきあいをしているでしょうか。

1. 顔を知っている人はいない
2. 顔を知っている人もあるが、あいさつはしない
3. あいさつする人もあるが、親しく話してはいない
4. 親しく話す人も少しはいる
5. 親しく話す人が多い

問12 現在のつきあいの仕方はともかくとして、あなたは近所の人達とのつきあいについて、どのような形をお望みですか。

1. できるだけ多くの人と親しくつきあいたい
2. 親しいつきあいをする人も少しはいた方がよい
3. 顔を合わせたら挨拶する程度がちょうどよい
4. 近所づきあいはあまりしたくない

問13 あなたはごみ集積所（またはコンテナボックス）を利用するにあたって、次のようなことをお考えになることがありますか。それぞれについて当てはまる番号に○をつけて下さい。

	よく 考える	時には 考える	あまり 考えない	ほとんど 考えない
・ルールを守って捨てないと、近所から何か言われるだろう	1	2	3	4
・指定容器（ポリバケツ、指定袋）で捨てないと集積所が汚れるだろう	1	2	3	4
・自分がどのようなごみを捨てているのか、他人に知られたくない	1	2	3	4
・ルールを守って捨てないと、収集する人に迷惑をかけるだろう	1	2	3	4

問14(a) お宅では現在、仙台市が行っている家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集に、主にどのような容器で、ごみを出していますか。一つ選んで○をつけて下さい。なお「指定袋（仙台市が指定しているごみ袋）」には、「市販の指定袋」と「スーパーマーケットなどで渡される指定マーク付き買い物袋」とがあります。どの「指定袋」について質問しているかは、選択肢の中に示してありますので、注意して、ご回答下さい。

1. ポリバケツの中に、ごみを直接入れて出す
2. ポリバケツの中に「市販の指定袋」を入れて出す
3. ポリバケツの中に「市販の指定袋」以外の袋を入れて出す
4. ポリバケツを使わず、「市販の指定袋」か「指定マーク付きの買い物袋」で出す
5. ポリバケツを使わずに、指定以外の袋で出す
6. 集積所を利用せず、すべて自家処理している
7. コンテナボックス
8. その他 具体的に：

問14(b) では、なぜそのような容器で捨てているのですか。次の理由の中から、あなたがふだん、感じておられることをいくつか選んで、番号に○をつけて下さい。

1. 仙台市の決まりだから
2. 隣近所がそのようにしているから
3. 手間がかからないから
4. 習慣だから
5. 美観を損なわないから
6. ごみを集める人が収集しやすいから
7. 集積所まで持ち運びがしやすいから

問15(a) 4月1日から、仙台市のごみ収集ルールが変わりました。4月1日以前、あなたのお宅では主にどのような容器で、仙台市が行っている日常の家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集にごみを出していましたか。一つ選んで○をつけて下さい。

1. ポリバケツのみで出していた
2. ポリバケツの中に袋を入れて出していた
3. 泉区の指定袋で出していた
4. 袋のみ（「泉区の指定袋」を除く）で出していた
5. コンテナボックス
6. 集積所を利用せず、すべて自家処理していた
7. 4月1日以前には、仙台市に住んでいなかった
8. その他 具体的に：

問15(b) では、なぜそのような容器で捨てていたのですか。次の理由の中から、あなたが感じておられたことを、いくつか選んで、番号に○をつけて下さい。

1. 仙台市の決まりだから
2. 隣近所がそのようにしているから
3. 手間がかからないから
4. 習慣だから
5. 美観を損なわないから
6. ごみを集める人が収集しやすいから
7. 集積所まで持ち運びがしやすいから

問16(a) お宅では、仙台市が行っている日常の家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集で出すごみを、いつごろ出していますか。当てはまる番号一つ選んで、○をつけて下さい。

1. 必ず収集日の朝に集積所に出している
2. ときどき前日に集積所に出すこともある
3. たいていは前日に集積所に出している
4. コンテナボックスなのでいつ出してもよいことになっている
5. (アパート・マンションの管理人など) 他人が出しているので分からない
6. その他 具体的に：

7 ページの問17へお進み下さい

問16(b) 【問16(a)で1を選ばれた方だけにお聞きます】必ず収集日の朝に集積所に出すには何か理由があることと思います。あなたのお考えに最も近いもの一つに○をつけて下さい。

1. 決まりだから
2. 近所の人たちが朝に出しているから
3. 長い間の習慣だから
4. カラスなどの被害を防げるから
5. その他 具体的に：

問16(b) 【問16(a)で2または3を選ばれた方だけにお聞きます】収集日の前日に集積所に出すには何か理由があることと思います。あなたのお考えにもっとも近いもの一つに○をつけて下さい。

1. いつ出してもよいと思っていたから
2. 近所の人たちが前日に出しているから
3. 長い間の習慣だから
4. カラスなどの被害がないから
5. 当日の朝に出す時間的余裕がないから
6. その他 具体的に：

問17 あなたのご近所では、仙台市が行っている日常の家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集で、前日にごみを出している家はどれくらいありますか。

1. 前日に集積所に出している家はほとんどない
2. 前日に集積所に出している家が少しはある
3. 前日に集積所に出している家が多い
4. コンテナボックスなのでいつ出してもよいことになっている
5. いっごろ出しているのか、わからない
6. その他 具体的に：

問18 あなたは、仙台市の家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集の時間について、どのようにお考えですか。あなたのお考えにもっとも近いもの一つに○をつけて下さい。

- | | |
|---------|-------------------|
| 1. 早すぎる | 3. 時間が定まっていないので困る |
| 2. 遅すぎる | 4. 今のままでよい |

しばらくごみについての質問が続きましたので、やや一般的なことについてうかがいます

問19 食料品や生活雑貨など、日常的な買い物では、次に挙げたようなお店をどのくらい利用しますか。それぞれについて当てはまる番号に○をつけてください。

	ほとんど毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんど利用しない
・ スーパー・マーケット	1	2	3	4	5
・ 生協店舗	1	2	3	4	5
・ 共同購入	1	2	3	4	5
・ デパート、百貨店	1	2	3	4	5
・ コンビニエンス・ストア	1	2	3	4	5
・ 魚屋、文房具屋といった専門店	1	2	3	4	5

問20 次にあげた意見について、あなたはそう思いますか、それとも、そうは思いませんか。あてはまる番号に○をつけてください。

	どちらか というば そう思う	どちら とも いえない	どちらか というば そう思わない	そうは 思わない
--	----------------------	-------------------	------------------------	-------------

・ 政治のことは難しすぎて自分にはとても理解できない

1 2 3 4 5

・ 政治に熱を入れるより、自分の仕事に精を出したほうがよい

1 2 3 4 5

・ 政治のことはやりたい人にまかせておけばよい

1 2 3 4 5

・ われわれが少々がんばったところで政治はよくなるものではない

1 2 3 4 5

問21 あなたは、現在の日本の社会に全体として満足していますか、満足していませんか。

1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満である
 4. 不満である

問22 あなたは、現在の自分の生活に全体として満足していますか、満足していませんか。

1. 満足している
 2. どちらかといえば満足している
 3. どちらかといえば不満である
 4. 不満である

問23 仮に、現在の日本の社会全体を、以下に書いてあるように5つの層に分けるとすれば、あなた自身はどれに入るとお考えですか。

1. 上 2. 中の上 3. 中の下 4. 下の下 5. 下の下

問24 あなたは、次の地域に対して、どの程度の愛着を感じておられますか。それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに○をつけてください。

- | | 非常に
感じて
いる | やや
感じて
いる | どちら
ともい
えない | あまり
感じて
いない | ほとんど
感じて
いない |
|-------------|------------------|-----------------|-------------------|-------------------|--------------------|
| ・ 仙台市 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 現在お住まいの区 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 現在お住まいの町内 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

それでは、再びごみについての質問にもどります

問25 あなたは次に挙げるような行動は、ごみ問題の対策としてどのくらい役立つと思いますか。それぞれについて、当てはまる番号に○をつけてください。

- | | 非常に
役立つ | 少しは
役立つ | どちら
ともい
えない | あまり
役立た
ない | ほとんど
役立た
ない |
|----------------------------------------------------|------------|------------|-------------------|------------------|-------------------|
| ・ 生活ごみの収集・処理を有料化する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 電池は、仙台市や販売店の、回収容器に入れる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ ものが古くなっても、使えるうちは新しいもの買い替えない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 家族が着られなくなった衣服などを親戚や知人にゆずる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ デパートなどでの過剰包装は断る | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 古新聞・古雑誌などを、資源回収やちり紙交換に出す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 使い捨ての商品を買わない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 生ごみはよく水を切って出す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ ごみのポイ捨てはしない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集に混ぜて出さない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問26 あなたは、ごみ問題の対策として、次に挙げるようなことは、手間がかかると感じますか、それとも手間はかからないと感じますか。それぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに、○をつけてください。

- | | 非常に
手間が
かかる | 少しは
手間が
かかる | どちら
ともい
えない | あまり手
間がか
からない | 全く手
間がか
からない |
|----------------------------------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|---------------------|--------------------|
| ✓ 電池は、仙台市や販売店の、回収容器に入れる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ ものが古くなっても、使えるうちは新しいもの買い替えない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 家族が着られなくなった衣服などを親戚や知人にゆずる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ デパートなどでの過剰包装は断る | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ✓ 古新聞・古雑誌などを、資源回収やちり紙交換に出す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ 使い捨ての商品を買わない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ✓ 生ごみはよく水を切って出す | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ・ ごみのポイ捨てはしない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ✓ 空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ（泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」）収集に混ぜて出さない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

問27 仙台市や仙台市民による、ごみの資源化は、他都市に比べて、進んでいると思いますか、それとも遅れていると思いますか。

1. かなり進んでいる
2. やや進んでいる
3. どちらともいえない
4. やや遅れている
5. かなり遅れている

問32 では、現在の負担の仕方はともかくとして、ごみの収集・処理に必要な費用を、住民はどのような基準で負担するのが公平だとお考えですか。次のうち、あなたのお考えにもっとも近いもの一つを選んで、番号に○をつけて下さい。

1. それぞれの世帯が、同じ金額ずつ負担する
2. 人数の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
3. 収入の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
4. ごみ排出量の多い世帯は多く、少ない世帯は少なく負担する
5. それぞれの世帯が、負担したい額だけ負担する
6. その他 具体的に：

問33 ごみ問題の対策には、ごみ処理の有料化などといった金銭的費用の負担を必要とする場合と、分別などの労力の負担を必要とする場合があります。あなたは、どのような負担なら、求められてもよいと思いますか。次の中から、あなたの考えにもっとも近いもの一つを選んで、○をつけてください。

1. 金銭的な負担であれば、求められてもよい
2. 労力的な負担であれば、求められてもよい
3. 金銭的な負担でも労力的な負担でも、求められてよい
4. 金銭的な負担も労力的な負担も、求められたくない

問34 ごみ収集・処理の、ある部分を有料化とした場合、何を有料化してもよいと思いますか、あるいは有料化すべきでないと思いますか。それぞれについて当てはまる番号に○をつけて下さい。

	有料化し てもよい	どちらと もいえない	有料化す べきでない
・ 通常のごみ	1	2	3
・ 空き缶・空きびん	1	2	3
・ 粗大ごみ	1	2	3

問35 一般的にいて、行政が住民のためにおこなう事業の経費を住民がどのように負担するのが公平だと思いますか。次のうち、あなたのお考えにもっとも近いもの一つを選んで、番号に○をつけて下さい。

1. 恩恵を受ける人が、恩恵の程度に比例して負担する
2. 誰もが同じ額を負担する
3. 経済的に余裕のあるものは多く、余裕のないものは少なく負担する
4. 負担したい額だけ負担する
5. その他 具体的に：

問36 あなたは、仙台市の行政全般について、どの程度信頼できると思いますか。

1. かなり信頼できる
2. やや信頼できる
3. あまり信頼できない
4. ほとんど信頼できない

ここで、あなたのご家族についてうかがいます。多少、立ち入った質問もさせていただきますが、プライバシーに関することが外部に漏れることは一切ありませんので、ぜひお答え下さい

問37 あなたが仙台市で一緒にお住まいになっているご家族には、次の年代の方が何人いらっしゃいますか。あなた自身も含めてお答え下さい。なお、単身赴任などで別居されているご家族がいらっしゃる場合は、その方を除いて、お答え下さい。

1. 19歳以下	()	人
2. 20～29歳	()	人
3. 30～39歳	()	人
4. 40～49歳	()	人
5. 50～59歳	()	人
6. 60～69歳	()	人
7. 70歳以上	()	人

問38 仙台市で同居されているご家族の中で、一番収入の多い方のお仕事について、いくつかかがあります。

【お願い!!】

一番収入の多い方が、単身赴任・出稼ぎなどで一緒にお住いでない場合も、ここではその方についてお答え下さい。ただし、学生などの方で一人暮らしをされており、別居のご家族から仕送りを受けている場合には、仕送りをしてくれている方についてではなく、あなたご自身についてお答え下さい。

A. その方は、あなたにとってどのような関係の方ですか。

1. 本人
2. 夫または妻
3. 父または母（義理の関係も含む）
4. 子供（義理の関係も含む）
5. その他（具体的に： _____）

B. その方のお仕事は大きく分けて以下のどれに当たりますか。

1. 専業主婦（内職やパート、家族従業をしていない方）
2. 学生
3. 臨時雇用、パート、アルバイト、内職
4. 常時雇用されている一般従業員
5. 自営業主および家族従業者
6. 経営者（重役）役員
7. その他（具体的に： _____）

C. 従業員（雇われている人）は、「会社」全体で何人くらいですか。

1. なし
2. 1～499人
3. 500～999人
4. 1000人以上
5. 官公庁（公務員）

16ページの間39へ
お進み下さい

D. その方は従業先でどのような仕事をしておられるのですか。どこに分類できるかわからない場合は、7に○をつけ、具体的な仕事内容を書いて下さい。

1. 事務的職業（庶務・人事・経理などの事務一般、警察官・自衛官なども含む）
2. 販売的職業（小売業、卸し、不動産仲介、保険外交、旅行ガイドなども含む）
3. 熟練・労務的職業（理容師、調理師、工員、運転手、警備員、建設作業員など）
4. 専門的職業（医師、弁護士、教師、技術者など専門的知識を要するもの）
5. 管理的職業（企業・官公庁における課長職以上のもの）
6. 農林水産業（ただし、第二種兼業や農水産物加工は含まない）
7. その他 具体的に： _____

問39 現在同居されている家族全体（単身赴任、出稼ぎの方は含みます）で、過去1年間のお宅の収入は、税込みでいくらくらいでしょうか。

【お願い!!】

学生などの方で一人暮らしをされており、どなたかから仕送りを受けている場合には、仕送りも含めた、あなたご自身の収入をお答え下さい。

- | | |
|---------------------|----------------------|
| 01. 100万円未満 | 06. 500万円以上 600万円未満 |
| 02. 100万円以上 200万円未満 | 07. 600万円以上 700万円未満 |
| 03. 200万円以上 300万円未満 | 08. 700万円以上 800万円未満 |
| 04. 300万円以上 400万円未満 | 09. 800万円以上 900万円未満 |
| 05. 400万円以上 500万円未満 | 10. 900万円以上 1000万円未満 |
| | 11. 1000万円以上 |

それでは、最後に、あなたご自身についてお尋ねします。ご家族の場合と同様、プライバシーについて外部に漏れることは絶対にありませんので、ご回答をお願いします。

問40 あなたの性別と年齢をお答え下さい（当てはまる番号を○で囲んで下さい）。

1. 女 2. 男

- | | | |
|------------|------------|------------|
| 01. 19歳以下 | 05. 35～39歳 | 09. 55～59歳 |
| 02. 20～24歳 | 06. 40～44歳 | 10. 60～64歳 |
| 03. 25～29歳 | 07. 45～49歳 | 11. 65～69歳 |
| 04. 30～34歳 | 08. 50～54歳 | 12. 70歳以上 |

付録4.2. 単純集計表

単純集計表の見方

1. 質問文は内容を損なわない範囲で簡略化した。
質問文の詳細は付録4.1.の調査票を参照されたい。
2. 表中の数値は特にことわりがない限りパーセント値である。
3. 100%が何票にあたるかは、%の基数として示した。

問1 あなたは仙台市（旧泉市、宮城町、秋保町を含む）
に何年前からお住まいですか。

	%
～ 4年	28.9
5 ～ 9年	12.1
10 ～ 19年	19.5
20 年以上	38.1
わからない・こたえない	1.4
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問2 あなたは仙台に移ってこられる前には、どちらにお住まいでしたか。
(県別の回答を合併した。)

	%
生まれてからずっと仙台市に住んでいる	18.1
仙台を除く宮城県	22.9
宮城県を除く東北5県	26.1
関東地方	19.0
その他	11.2
わからない・こたえない	2.6
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問3.1. 労働時間+通勤時間（平日の1日平均。時間は、回答を四捨五入後、カテゴリー合併してある。）

時間	%
0時間	19.9
1～3時間	3.2
4～5時間	6.8
6～7時間	7.7
8時間	8.7
9時間	10.0
10時間	12.7
11時間	5.3
12時間	4.9
13時間	2.2
14時間以上	2.2
わからない・こたえない	16.5
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問3.3. 睡眠時間（平日の1日平均。時間は、回答を四捨五入後、カテゴリー合併してある。）

時間	%
1～4時間	0.7
5時間	3.8
6時間	20.8
7時間	40.4
8時間	28.3
9時間	3.9
10時間以上	1.2
わからない・こたえない	0.9
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問4 一般的に言って、今の日本社会は公平だと思いますか。

	%
公平だ	1.8
だいたい公平だ	34.7
あまり公平でない	47.7
公平でない	13.5
わからない・こたえない	2.3
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問3.2. 家事時間（平日の1日平均。時間は、回答を四捨五入後、カテゴリー合併してある。）

時間	%
0時間	3.4
1時間	16.3
2時間	17.5
3時間	15.0
4時間	12.0
5時間	13.1
6時間	6.3
7時間	3.5
8時間	3.8
9時間以上	4.2
わからない・こたえない	5.0
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問5 以下に示したような不公平が、今の世の中にあるとお考えですか（複数回答）。

	%
性別による不公平	47.3
年齢による不公平	34.4
学歴による不公平	63.6
職業による不公平	47.7
貧富による不公平	46.5
家柄による不公平	22.8
地域による不公平	31.6
思想・信条による不公平	9.7
人種・民族による不公平	27.0
その他	2.6

注：%の基数はすべて 1209

問6 あなたにとって、次のようなことはどのくらい重要でしょうか。 単位：%

	かなり重要である	まあ重要である	どちらともいえない	あまり重要でない	全く重要でない	わからない・こたえない	計
高い収入をえる	25.8	49.2	13.5	9.0	1.3	1.2	100.0
高い地位につく	5.5	21.7	30.8	30.7	9.6	1.7	100.0
人並に暮らす	27.1	50.3	13.7	6.0	1.7	1.1	100.0
趣味に打ち込む	15.5	44.3	23.1	13.3	2.6	1.2	100.0
のんびり暮らす	20.9	46.0	21.6	8.9	1.6	1.1	100.0
仕事に生きる	11.4	35.4	29.8	17.4	4.5	1.5	100.0

注：%の基数はすべて 1209

問7 仙台市で「ごみ問題が生じている」と感じていますか、いませんか。

	%
問題が生じていると、かなり感じている	42.8
問題が生じていると、やや感じている	42.8
問題が生じているとは、あまり感じていない	11.2
問題が生じているとは、ほとんど感じていない	2.0
わからない・こたえない	1.1
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問8 ごみ問題の諸側面を心配する程度

単位：%

	非常に 心配だ	かなり 心配だ	やや 心配だ	心配 でない	わからない こたえない	計
・大量のごみに、焼却や埋立の 能力が追いつかないこと	35.2	36.7	25.2	2.0	0.8	100.0
・ごみ処理にかかる費用のために 自治体の財政が圧迫されること	16.8	31.8	41.5	8.7	1.2	100.0
・適切な処理がされないごみによ って環境に悪影響を与えること	44.7	36.1	17.1	1.0	1.2	100.0
・まだ使用可能なものがごみとし て捨てられて、無駄になること	28.1	36.9	30.6	3.3	1.1	100.0
・使い捨てのものが大量に消費さ れて天然資源が浪費されること	44.2	34.6	18.6	1.6	1.1	100.0
・生活ゴミの排出ルールが守られ ず、集積所が汚れること	25.4	29.6	39.1	5.0	0.8	100.0

注：%の基数はすべて 1209

問9 実行している対処行動

	%
・電池は、仙台市や販売店の、 回収容器に入れる	55.4
・ものが古くなっても、使えるうちは、 新しいものに買い換えない	66.4
・家族が着られなくなった衣服などを、 親戚や知人にゆずる	49.2
・デパートなどでの過剰包装は断る	25.3
・古新聞・古雑誌などを、資源回収や、 ちり紙交換に出す	86.7
・使い捨ての商品は買わない	20.3
・生ごみはよく水を切って出す	76.6
・ごみのポイ捨てはしない	81.7
・空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ (泉区は「もやせるごみ・もやせない ごみ」) 収集に混ぜて出さない	89.0

注：複数回答で、それぞれ実行していると答えた人の比率
%の基数はすべて 1209

問10 ごみの収集や処理について、近所と話をする程度

	%
ほとんどない	48.0
たまにすることがある	44.7
よく話題になる	7.2
わからない・こたえない	0.2
計	100.0
(%の基数)	(1209)

問11 同じごみ集積所(またはコンテナボックス)利用者とのつきあいの程度

	%
顔を知っている人はいない	11.1
顔を知っている人もあるが、あいさつはしない	3.6
あいさつをする人もあるが、親しく話してはいない	33.3
親しく話をする人も少しはいる	31.9
親しく話をする人が多い	19.5
わからない・こたえない	0.6
計	100.0
(%の基数)	(1209)

問12 近所の人たちとのつきあいについて、どのような形を望みますか。

	%
できるだけ多くの人と親しくつきあいたい	23.4
親しいつきあいをする人も少しはいた方がよい	48.1
顔を合わせたら挨拶する程度がちょうどよい	26.7
近所づきあいはあまりしたくない	1.7
わからない・こたえない	0.1
計	100.0
(%の基数)	(1209)

問13 ごみ集積所を利用するにあたって、次のことを考えますか。

単位：%

	よく考える	時には考える	あまり考えない	ほとんど考えない	わからない・こたえない	計
・ルールを守って捨てないと近所から何か言われるだろう	46.7	31.4	12.8	7.4	1.6	100.0
・指定容器で捨てないと集積所が汚れるだろう	73.8	17.2	6.0	1.8	1.2	100.0
・自分がどのようなごみを捨てているのか、他人に知られたくない	16.7	29.2	34.5	17.9	1.7	100.0
・ルールを守って捨てないと、収集する人に迷惑をかけるだろう	76.9	19.4	2.1	0.9	0.7	100.0

注：%の基数はすべて1209

問14(a) 現在、ごみ排出に使っている容器

	%
ポリバケツの中に、ごみを直接入れて出す	1.7
ポリバケツの中に、「市販の指定袋」を入れて出す	16.0
ポリバケツの中に、「市販の指定袋」以外の袋を入れて出す	9.5
ポリバケツ使わず、「市販の指定袋」か「指定マーク付きの買い物袋」で出す	64.8
ポリバケツを使わずに、指定以外の袋で出す	3.2
集積所を利用せず、すべて自家処理している	0.8
コンテナボックス	2.0
その他	1.3
わからない・こたえない	0.6
計	100.0
(%の基数)(1209)	

問15(a) 「指定袋」導入(1991年4月1日)前のごみ排出容器

	%
ポリバケツのみで出していた	3.6
ポリバケツの中に袋を入れて出していた	40.0
泉区の指定袋で出していた	15.1
袋のみ(「泉区の指定袋」を除く)で出していた	33.5
コンテナボックス	2.2
集積所を利用せず、すべて自家処理していた	0.9
4月1日以前には、仙台市に住んでいなかった	2.7
その他	1.0
わからない・こたえない	0.9
計	100.0
(%の基数)(1209)	

問14b 排出容器を利用する理由(現在)

問15b 排出容器を利用した理由(指定袋導入以前)

	現在	指定袋導入以前	%
仙台市の決まりだから	81.0	53.8	
隣近所がそのようにしているから	9.0	15.9	
手間がかからないから	20.3	22.9	
習慣だから	19.0	25.5	
美観を損なわないから	13.1	17.0	
ごみを集める人が収集しやすいから	43.0	37.6	
集積所までの持ち運びがしやすいから	33.1	29.3	

注：複数回答で、それぞれ指摘された回答の比率。%の基数はすべて1209。

「わからない・こたえない」は現在は0.1%、導入前は0.2%。

問16(a) 家庭ごみを排出する時間

	%
必ず収集日の朝に集積所に出している	77.4
ときどき前日に集積所に出すこともある	10.3
たいていは前日に集積所に出している	5.5
コンテナボックスなのでいつ出してもよいことになっている	2.6
(アパート・マンションの管理人など)他人が出してるので分からない	2.8
その他	0.7
わからない・こたえない	0.7
計	100.0
(%の基数)(1209)	

問16(b) 必ず収集日の朝に集積所に出すには何か理由があることと思います。
あなたのお考えに最も近いもの一つに○をつけて下さい。
(問16(a)で必ず収集日の朝に出していると回答した人のみが対象)

	%
1. 決まりだから	50.1
2. 近所の人たちが朝に出しているから	1.8
3. 長い間の習慣だから	10.4
4. カラスなどの被害を防げるから	27.1
5. その他	2.5
6. 決まりだから+カラスなどの被害を防げるから	7.1
7. 長い間の習慣だから+カラスなどの被害を防げるから	0.8
9. わからない・こたえない	0.3

計 100.0
(%の基数) (936)

注：1.と4.に○がつけられている回答が多くみられたので、新しいカテゴリー 6.として集計した。また、同様に 3.と4.に○がつけられている回答を新しいカテゴリー 7.として集計した。

問16(b) 収集日の前日に集積所に出すには何か理由があることと思います。
あなたのお考えに最も近いもの一つに○をつけて下さい。
(問16(a)で「ときどき前日に出すこともある」または「たいていは前日に出している」と回答した人のみが対象)

	%
1. いつ出してもよいと思っていたから	2.1
2. 近所の人たちが前日に出しているから	2.1
3. 長い間の習慣だから	3.1
4. カラスなどの被害がないから	2.1
5. 当日の朝に出す時間的余裕がないから	80.7
6. その他	7.8
7. 長い間の習慣だから+カラスなどの被害がないから	0.5
9. わからない・こたえない	1.6

計 100.0
(%の基数) (192)

注：3.と4.に○がつけられている回答が多くみられたので、新しいカテゴリー 7.として集計した。

問17 近所で前日にごみを出している家はどのくらいありますか。

	%
前日に集積所に出している家はほとんどない	30.1
前日に集積所に出している家が少しはある	44.1
前日に集積所に出している家が多い	8.9
コンテナボックスなのでいつ出してもよいことになっている	2.3
いつごろ出しているのか、わからない	9.6
その他	0.3
わからない・こたえない	4.7

計 100.0
(%の基数) (1209)

問18 仙台市の家庭ごみ収集の時間についてどのようにお考えですか

	%
早すぎる	4.5
遅すぎる	4.2
時間が定まっていないので困る	14.0
今のままでよい	75.5
わからない・こたえない	1.8

計 100.0
(%の基数) (1209)

問19 食料品や生活雑貨など、日常的な買い物では、次に挙げたようなお店をどのくらい利用しますか。

単位：%

	ほとんど毎日	週に数回	月に数回	年に数回	ほとんど利用しない	わからない・こたえない	計
・スーパー・マーケット	22.8	47.6	22.2	2.8	3.1	1.4	100.0
・生協店舗	5.8	16.2	20.1	10.5	38.3	9.1	100.0
・共同購入	0.5	6.5	9.5	3.0	67.5	13.1	100.0
・デパート、百貨店	0.8	7.9	44.7	30.0	10.0	6.6	100.0
・コンビニエンスストア	6.4	23.9	25.7	14.1	20.6	9.3	100.0
・魚屋、文房具屋といった専門店	5.1	22.0	32.4	19.6	16.2	4.6	100.0

注：%の基数はすべて 1209

問20 次にあげた意見について、あなたはそう思いますか、そうは思いませんか。 単位：%

	そう 思う	どちらか といえば そう思う	どちら ともい えない	どちらか といえば そう思わ ない	そうは 思わ ない	わから ない こたえ ない	計
・政治は難しすぎて理解できない	10.6	26.1	25.6	18.4	17.9	1.2	100.0
・政治より仕事に精を出したほうがよい	19.1	29.4	30.6	9.3	9.8	1.7	100.0
・政治はやりたい人にまかせておけばよい	10.9	18.0	23.9	17.0	28.4	1.7	100.0
・がんばっても政治はよくなる	25.7	26.8	18.6	11.7	15.9	1.2	100.0

注：%の基数はすべて1209

問21 現在の日本社会に全体として満足していますか。

	%
満足している	4.7
どちらかといえば満足している	49.1
どちらかといえば不満である	37.5
不満である	7.9
わからない・こたえない	0.8
計	100.0
(%の基数)	(1209)

問22 現在の自分の生活に全体として満足していますか。

	%
満足している	15.1
どちらかといえば満足している	54.8
どちらかといえば不満である	23.7
不満である	5.9
わからない・こたえない	0.5
計	100.0
(%の基数)	(1209)

問23 日本社会を5つの層に分けるとすればあなた自身はどれに入ると思いますか。

	%
上	2.2
中の上	28.2
中の下	48.6
下の上	15.7
下の下	4.1
わからない・こたえない	1.2
計	100.0
(%の基数)	(1209)

問24 あなたは、次の地域に対して、どの程度愛着を感じておられますか。 単位：%

	非常に 感じて いる	やや 感じて いる	どちら ともい えない	あまり 感じて いない	ほとんど 感じて いない	わから ない こたえ ない	計
・仙台市	37.1	41.3	12.7	6.0	2.4	0.6	100.0
・現在お住まいの区	19.9	41.9	22.0	10.3	4.7	1.1	100.0
・現在お住まいの町内	18.9	35.5	24.5	13.7	5.9	1.6	100.0

注：%の基数はすべて1209

問25 対処行動の有効性

単位：%

	非常に 役立つ	少しは 役立つ	どちら ともい えない	あまり 役立た ない	ほとんど 役立た ない	わから ない こたえ ない	計
・生活ごみの収集・処理を有料化する	11.9	24.4	33.9	15.6	12.6	1.7	100.0
・電池は、仙台市や販売店の、回収容器に入れる	53.5	32.4	7.5	3.7	1.5	1.3	100.0
・ものが古くなっても、使えるうちは、新しいものに買い換えない	40.9	38.0	15.6	3.3	1.5	0.7	100.0
・家族が着られなくなった衣服などを、親戚や知人にゆずる	26.6	43.3	16.3	7.4	5.1	1.2	100.0
・デパートなどででの過剰包装は断る	31.9	39.6	18.0	5.3	3.3	1.8	100.0
・古新聞・古雑誌などを、資源回収や、ちり紙交換に出す	69.5	25.1	3.3	0.8	0.7	0.7	100.0
・使い捨ての商品は買わない	29.0	32.8	28.0	4.9	3.2	2.2	100.0
・生ごみはよく水を切って出す	54.6	31.5	9.6	2.1	1.2	1.1	100.0
・ごみのポイ捨てはしない	72.1	20.0	3.5	1.2	1.3	1.9	100.0
・空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ(泉区は「もやせるごみ・もやせないごみ」)収集に混ぜて出さない	76.3	18.0	3.1	0.5	0.8	1.2	100.0

注：%の基数はすべて1209

問26 対処行動の手間

単位：%

	非常に 手間が かかる	少しは 手間が かかる	どちら ともい えない	あまり手 間がかか らない	全く手間 がかか らない	わからない こたえない	計
・ 電池は、仙台市や販売店の、 回収容器に入れる	8.9	41.0	6.7	29.0	13.4	0.9	100.0
・ ものが古くなって、使えるうちは、 新しいものに買い換えない	2.5	13.9	26.6	30.4	24.4	2.2	100.0
・ 家族が着られなくなった衣服などを、 親戚や知人にゆずる	6.6	26.8	24.6	27.2	13.0	1.8	100.0
・ デパートなどでの過剰包装は断る	3.1	12.9	28.8	27.3	25.6	2.4	100.0
・ 古新聞・古雑誌などを、資源回収や ちり紙交換に出す	5.4	32.0	8.4	35.1	17.2	1.9	100.0
・ 使い捨ての商品は買わない	3.1	11.5	35.4	22.0	24.5	3.5	100.0
・ 生ごみはよく水を切って出す	3.6	25.7	9.8	39.0	20.3	1.5	100.0
・ ごみのポイ捨てはしない	3.0	5.8	10.6	28.9	48.3	3.5	100.0
・ 空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ (泉区は「もやせるごみ・もやせない ごみ」) 収集に混ぜて出さない	4.6	21.6	8.2	32.9	30.9	1.7	100.0

注：%の基数はすべて 1209

問27 仙台市のごみ資源化

	%
かなり進んでいる	5.2
やや進んでいる	20.6
どちらともいえない	51.0
やや遅れている	16.9
かなり遅れている	4.5
わからない・こたえない	1.7
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28 生活ごみ収集方法の個別評価

問28.1.市販の指定袋の値段

	%
高すぎる	49.5
今のままでよい	36.6
安すぎる	0.4
値段を知らない	12.7
わからない・こたえない	0.7
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28.3.家庭ごみの収集回数

	%
多すぎる	0.3
今のままでよい	86.8
少なすぎる	8.7
回数を知らない	3.5
わからない・こたえない	0.7
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28.5.粗大ごみの収集回数

	%
多すぎる	0.2
今のままでよい	47.4
少なすぎる	40.1
回数を知らない	11.7
わからない・こたえない	0.6
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28.7.空き缶・空きびんの収集区分

	%
もっと区分を細かくすべきだ	10.0
今のままでよい	79.2
もっと区分を大まかにすべきだ	3.6
どのように区分しているか知らない	6.5
わからない・こたえない	0.7
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28.2.指定袋が透明であること

	%
透明である方がよい	25.5
透明でない方がよい	42.6
どちらでもよい	31.6
わからない・こたえない	0.3
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28.4.空き缶・空きびんの収集回数

	%
多すぎる	0.3
今のままでよい	55.3
少なすぎる	40.0
回数を知らない	4.0
わからない・こたえない	0.3
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28.6.家庭ごみの収集区分

	%
もっと区分を細かくすべきだ	9.8
今のままでよい	80.6
もっと区分を大まかにすべきだ	2.9
どのように区分しているか知らない	6.0
わからない・こたえない	0.6
計	100.0 (%の基数) (1209)

問28.8.集積所までの距離について

	%
遠すぎる	5.1
今のままでよい	92.0
近すぎる	2.2
わからない・こたえない	0.7
計	100.0 (%の基数) (1209)

問29 仙台市の生活ごみの収集・処理事業全般評価

点数	%
0	0.2
1 ~ 9	0.1
10 ~ 19	0.2
20 ~ 29	0.2
30 ~ 39	0.7
40 ~ 49	1.4
50 ~ 59	8.0
60 ~ 69	11.2
70 ~ 79	23.3
80 ~ 89	31.0
90 ~ 99	15.6
100	4.8
計	100.0
	(%の基数) (1168)

問30 対処行動の協力可能性

単位: %

	協力 できる	多分 協力 できる	どちら ともい えない	多分 協力で きない	協力 できな い	わから ない こたえ ない	計
生活ごみの収集・処理を有料化する	11.2	21.7	29.2	17.3	19.7	0.9	100.0
電池は、仙台市や販売店の、 回収容器に入れる	51.5	32.8	9.8	4.0	0.7	1.2	100.0
ものが古くなっても、使えるうちは、 新しいもの買い換えない	40.7	32.1	20.7	4.5	1.2	0.9	100.0
家族が着られなくなった衣服などを、 親戚や知人にゆずる	36.3	28.7	24.4	6.5	3.1	1.0	100.0
デパートなどでの過剰包装は断る	34.8	33.0	23.8	4.9	1.9	1.6	100.0
古新聞・古雑誌などを、資源回収や、 ちり紙交換に出す	73.3	20.0	4.0	1.3	0.4	1.0	100.0
使い捨ての商品は買わない	30.3	25.7	32.5	6.8	2.8	1.9	100.0
生ごみはよく水を切って出す	67.0	24.5	6.4	1.1	0.3	0.7	100.0
ごみのポイ捨てはしない	80.1	15.4	2.9	0.5	0.2	0.9	100.0
空き缶・空きびんは仙台市の家庭ごみ (泉区は「もやせるごみ・もやせない ごみ」) 収集に混ぜて出さない	78.5	16.5	3.1	0.7	0.2	0.9	100.0

注: %の基数はすべて 1209

問31 仙台市のごみ収集・処理費用の負担方法について、あなたは公平だと思いますか。

	%
公平だ	37.2
どちらかといえば公平だ	47.5
どちらかといえば公平でない	9.9
公平でない	3.5
わからない・こたえない	1.9
計	100.0
(実数) (1209)	

問32 ごみの収集・処理費用を、住民はどのような基準で負担するのが公平だと思いますか。

	%
各世帯が、同じ金額	29.2
世帯の人数に比例して	23.0
世帯の収入に比例して	9.4
世帯のごみの排出量に比例して	29.8
各世帯が、負担したい額だけ	2.3
その他	4.6
わからない・こたえない	1.7
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問33 ごみ問題の対策のために、どのような負担なら求められてもよいと思いますか。

	%
金銭的な負担ならよい	26.0
労力的な負担ならよい	27.5
どちらも、求められてよい	16.5
どちらも、求められたくない	27.8
わからない・こたえない	2.2
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問34 ごみ収集・処理を有料化してもよいと思いますか。 単位: %

	通常の 家庭ごみ	空き缶 空きびん	粗大ごみ
有料化してもよい	8.9	12.5	68.8
どちらともいえない	20.3	28.9	17.9
有料化すべきでない	68.9	56.7	12.7
わからない・こたえない	1.8	1.9	0.6
計	100.0	100.0	100.0
(%の基数) (1209)	(1209)	(1209)	(1209)

問35 行政が住民のためにおこなう事業の経費を住民がどのように負担するのが公平だと思いますか。

	%
受ける恩恵に比例して	30.2
誰もが同じ額を負担する	28.4
経済的な余裕に比例して負担したい額だけ	32.0
その他	3.7
わからない・こたえない	2.7
わからない・こたえない	3.0
計	100.0
(％の基数) (1209)	

問36 仙台市の行政信頼度

	%
かなり信頼できる	8.4
やや信頼できる	62.4
あまり信頼できない	24.1
ほとんど信頼できない	2.4
わからない・こたえない	2.6
計	100.0
(％の基数) (1209)	

問37 同居している家族数(回答者自身を含む。各年齢層を合併して、同居家族の合計人数を算出した。)

	%
1人	23.3
2人	18.5
3人	19.7
4人	21.3
5人	7.9
6人	4.3
7人	1.4
8人	0.5
9人	0.2
10人	0.0
11人	0.1
12人	0.1
わからない・こたえない	2.0
計	100.0
(％の基数) (1209)	

問38A 仙台市で同居されているご家族の中で、一番収入の多い方のお仕事について、いくつかうかがえます。

その方は、あなたにとってどのような関係の方ですか。

	%
本人	38.5
夫または妻	50.4
父または母(養理の関係も含む)	2.5
子供(養理の関係も含む)	4.6
その他	1.2
わからない・こたえない	2.9
計	100.0
(％の基数) (1209)	

問38B 仙台市で同居されているご家族の中で、一番収入の多い方のお仕事について、いくつかうかがえます。

その方のお仕事は大きく分けて以下のどれに当たりますか。

	%
専業主婦(内職やパート、家族従業をしていない方)	1.9
学生	6.2
臨時雇用、パート、アルバイト、内職	3.5
常時雇用されている一般従業員	60.5
自営業主および家族従業者	12.2
経営者(重役)役員	5.6
その他	1.6
無職	4.6
わからない・こたえない	3.9
計	100.0
(％の基数) (1209)	

問38C 仙台市で同居されているご家族の中で、一番収入の多い方のお仕事について、
いくつかががいます。

従業員（雇われている人）は、「会社」全体で何人くらいですか。

	%
なし	5.5
1～499人	41.9
500～999人	5.9
1000人以上	15.4
官公庁（公務員）	9.0
非該当	12.3
わからない・こたえない	10.1
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問38D 仙台市で同居されているご家族の中で、一番収入の多い方のお仕事について、
いくつかががいます。

その方は従業員でどのような仕事をしておられるのですか。

	%
事務的職業（庶務・人事・経理などの事務一般、警察官・自衛官なども含む）	14.6
販売的職業（小売業、卸し、不動産仲介、保険外交、旅行ガイドなどを含む）	17.5
熟練・労務的職業（理容師、調理師、工員、運転手、警備員、建設作業員など）	15.7
専門的職業（医師、弁護士、教師、技術者など専門的知識を要するもの）	18.8
管理的職業（企業・官公庁における課長職以上のもの）	11.8
農林水産業（ただし、第二種兼業や農水産物加工は含まない）	0.4
その他	1.7
無職	12.2
わからない・こたえない	7.3
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問39 現在同居されている家族全体（単身赴任、出稼ぎの方は含みます）で、
過去1年間のお宅の収入は、税込みでいくくらいでしょうか。

	%
100万円未満	4.9
100万円以上 200万円未満	9.3
200万円以上 300万円未満	12.0
300万円以上 400万円未満	10.9
400万円以上 500万円未満	12.9
500万円以上 600万円未満	10.6
600万円以上 700万円未満	6.7
700万円以上 800万円未満	6.0
800万円以上 900万円未満	5.6
900万円以上 1000万円未満	4.5
1000万円以上	8.8
わからない・こたえない	7.9
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問40A 回答者の性別

	%
女	69.5
男	29.4
こたえない	1.2
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問40B 回答者の年齢

	%
19歳以下	2.2
20歳代	21.8
30歳代	20.2
40歳代	22.4
50歳代	18.0
60歳代	9.2
70歳以上	5.5
こたえない	0.8
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問41 回答者の学歴

	%
小学校	2.2
新制中学（旧制高等小学校なども含む）	9.5
新制高校（旧制高等女学校なども含む）	42.7
専門学校（新制高校卒業後入学したもの）	14.6
短大・高専（旧制高等学校なども含む）	12.1
大学（大学院も含む）	16.7
その他	0.8
わからない・こたえない	1.3
計	100.0
(%の基数) (1209)	

問42 回答者の従業上の地位

	%
専業主婦（内職やパート、家族従業をしていない方）	31.8
学生	6.4
臨時雇用、パート、アルバイト、内職	14.6
常時雇用されている一般従業員	29.4
自営業主および家族従業者	8.3
経営者（重役）役員	2.5
その他	1.2
無職	4.1
わからない・こたえない	1.7
計 100.0	
（%の基数）（1209）	

問43 あなたの現在のお住まいは、次のリストのどれに当たりますか。

	%
持ち家（一戸建て）	43.9
持ち家（中高層集合住宅）	4.1
借家（一戸建て）	7.9
借家（民間木造アパート）	13.5
借家（民間鉄筋アパート・マンション）	13.8
借家（公社・公団・公営住宅）	5.5
社宅・官舎・独身寮	8.7
下宿・間借り・住み込み・寄宿舎	1.8
その他	0.6
わからない・こたえない	0.3
計 100.0	
（%の基数）（1209）	

付録4.3. 調査依頼の葉書（官製葉書を使用した。）

調査ご協力をお願い

拝啓 皆様におかれましてはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。さて、私ども生活環境研究会では、数年来、ご問題を中心とした生活環境問題に関して研究を進めてまいりましたが、この度、仙台市環境事業局のご協力をいただき、仙台市民の意識調査を実施する運びとなりました。つきましてはあなたのお宅にもご協力をたまりたく、ご連絡させていただいた次第です。質問用紙を後日、郵便にてお届けいたしますので、ご記入下さいますようお願い申し上げます。回収は9月26日（木）から29日（日）にかけて学生調査員が直接お宅におうかがいたしますのでお手渡し下さい。なお調査の対象となられる方々は、くじ引きのような方法（無作為抽出）を用い、私どもで選ばせていただきました。あなたのお宅が選ばれたものには何ら特別な理由はございません。回答は統計的に処理され、また無記名ですので、お名前などプライバシーに関する事柄が外部に漏れることは一切ございません。調査の結果は公表すると共に、ご協力をいただいた皆様にもお届け致します。

お忙しい中まことに勝手とは存じますが、主旨をご理解の上、ご高配を賜りますようお願い申し上げます。

なお、ご不明の点などありましたら、下記までご連絡をいただければ幸いです。

敬具

実施主体：生活環境研究会

（東北大学文学部行動科学研究室内）

〒980 仙台市青葉区川内 TEL. 222-1800（内線 2671）

（ご連絡は月～金は10:00～17:00、土は10:00～13:00
にお願ひ致します。なお日祝日は大学構内電話の交換業務を休止しておりますのでご了承下さい）



平成4年3月 発行

暮らしとごみに関する 仙台市民意識調査報告書

調査編集 生活環境研究会
(代表 東北大学教授 海野道郎)
〒980
仙台市青葉区川内
東北大学文学部行動科学研究室内
電話 022-222-1800 内線 2671

執筆 小松洋 (調査幹事)
阿部晃士
小高さち
中原洪二郎
村瀬洋一

調査協力発行 仙台市環境事業局
〒980
仙台市青葉区二日町一番一号
仙台市役所北庁舎
電話 022-261-1111

印刷・製本 有限会社斎藤印刷

この本の本文用紙は、古紙再生紙を使用しています。